公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成26年5月1日発行（毎月1回1日発行）通巻543号

ハンドボール

MAY.2014 No.543

特集
第38回日本リーグ プレーオフ
第37回全国高校選抜大会

［表紙写真］第38回日本リーグ プレーオフより。女子MVPオムロン・藤間かおり選手（左）、男子MVP大同特殊鋼・野村喜亮選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

日本ハンドボール選手権、社会人連盟、新たな展開

公益財団法人 日本ハンドボール協会常務理事　江成 元伸

日本ハンドボール選手権（以下、日本選手権）構想は、現在まで理事会、常務理事会、全国理事長会、競技運営連絡協議会等の諸会議において活発な議論を展開してきました。平成27年度に実施することは理事会で決定しているところでありますが、昨年度末までにさらに充実した検討を重ねました。その結果、都道府県からの勝ち上がり方式で、チャンピオンを競う大会とし、予選大会から「日本選手権」とする開催に向けての具体案が全国のブロック理事長に理解・合意が得られました。

参加資格は高校生以上とし、各都道府県、各ブロックで予選を行います。本戦の参加チーム枠は男子24チーム、女子20チームとし、特に女子の20チーム枠は活性化を促進する引き金となることを期待しています。開催時期については国内、国際スケジュールの対応を検討しつつ、最適時期開催を目指しています。

さて、学生の参加をいかにするか、長い時間をかけて慎重に議論しました。最終的には日本リーグチームがシードされるのと同様に、国内で抜群のチーム力を有しているインカレ上位チームもシードすることにしました。さらに、各都道府県の予選から学生チームの参加を受け入れ、全国の最優秀チームの大会とすることが確認されました。今後は、開催時期、開催場所、予選時期などの詳細が詰められます。是非、楽しみにしていただきたいと思います。

もう一方の懸案である社会人連盟の活性化に関しては、平成22年4月に社会人連盟を設立し、平成23年には第1回社会人連盟理事会、第1回社会人ハンドボール選手権大会を開催し、平成26年は第4回を開催することとなりました。

社会人連盟は平成26年度に組織を一新し、社会人連盟理事会の役員、各委員会の役員を再編成します。理事会の下に位置する社会人委員会は社会人大会を統括し、従来のジャパンオープン委員会、全国クラブ委員会、都道府県委員会はジャパンオープン、東・中・西のクラブ大会、都道府県の社会人大会を統括し、名称をAdvance Project（略称：A pro.）と改名します。

連盟組織の体制及び事業計画として、下記に示す内容の実現を目指します。

（1）組織再編による活性化

ア　社会人連盟の組織下である「社会人委員会」以外の委員会について、活性化を目的に平成26年度より組織を再編する。

イ　再編の骨子は、「ジャパンオープン委員会」、「全国クラブ委員会」、「都道府県委員会」を「プロジェクト」へ集約する事で、今後横串を通した議論を活発にし、事業課題をより早く解決し、活性化に繋げる。

ウ　また、プロジェクトリーダー・GM・担当メンバーは、日本協会理事・参事が担当する。

（2）各組織の事業計画「平成26年度～平成27年度」

ア　社会人連盟
- ①社会人連盟独立化の推進（登録の一本化）
- ②2019、2020に向けての強化推進・協力
- ③国際スケジュールへの対応型具体案策定
- ④社会人連盟中期事業計画の策定
- ⑤マーケティング・広報強化（資金調達力アップ）

イ　社会人委員会
- ①マーケティング・広報強化（資金調達力アップ）
- ②チャレンジ大会あり方検討ワーキンググループ
- ③チャレンジ大会参加チーム拡大（クラブチーム）
- ④チャレンジ大会女子大会実現

ウ　A pro.
- ①日本選手権の実現
- ②女子チームの活性化
- ③登録人口の増加
- ④大会数の増加とその是非の議論
- ⑤各社会人大会のあり方検討

社会人の組織・体制作り及び社会人選手権、ジャパンオープン、クラブ選手権、都道府県選手権のさらなる整備、発展を目指し活動していきますので、よろしくお願い致します。

第38回 日本ハンドボールリーグ プレーオフ

男子：大同特殊鋼
女子：オムロン
共に3年連続17回目の優勝

今シーズンを終えて

日本ハンドボールリーグ機構GM　家永 昌樹

3月8日9日のプレーオフを持ちまして今シーズンの日本ハンドボールリーグの全日程が終了いたしました。

昨年8月31日の開幕からご来場いただきましたファンの皆様、開催にあたり準備運営をいただきました開催地の皆様には、深く感謝申し上げます。

今シーズンは、昨年のトヨタ自動車東日本に続いて、女子クラブチーム「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」が新たに日本リーグに参戦し、男子9チーム、女子7チームでの戦いになりました。この社会情勢の中で新たなチームの誕生はハンドボール界において大変うれしいことです。日本リーグ参戦までのチーム立ち上げから準備頂きました、地元高山市の有志方々、岐阜県ハンドボール協会、ご支援いただきました岐阜県のご努力に敬意を表すと共に、深く御礼を申し上げます。

今シーズンは日程発表後に男子アジア選手権の日程変更に伴って、急遽日程を変更しなければならず、大阪協会、埼玉県協会の方々には大変ご迷惑をお掛けしました。

また、9月16日には台風18号の影響により京都大会を延期せざる得ない状況になりましたが、台風の中、朝早くから開催地の京都府協会の方々には会場にお集まり頂き、各方面への連絡、振替日程のための会場を確保いただき、素早い対応ができましたことに深く御礼を申し上げます。2月には2週にわたり大雪に見舞われましたが、開催地の方々の努力と各チームの臨機応変な移動で、リーグ戦終盤での日程変更を回避することができました。開催地の方はご来場の方のために安全確保の雪かきを早朝から行っていただきました。チームのみなさんには移動途中での交通手段の変更や、飛行場での何時間もの缶詰状態にも関わらず会場入りいただき、無事に全日程を終えることができたことに感謝申し上げます。

日本リーグでは今シーズンより「会場運営ガイド」を作成し各会場での会場設営のマニュアル化、統一化を目指し、7月の開催地責任者・GM合同会議で発表させていただき、各会場運用を開始しています。会場作りの統一、安全面確保、有料試合としての運営上の注意、このマニュアル作成にあたってはリーグ委員の皆さんが、これまでの経験やノウハウを結集させてくれています。機会があれば皆様も是非ご参考にしてください。

レギュラーシーズンで新たな取り組みとして、各チームホームゲーム1試合を「集客指定試合」として決め、チーム、開催地が一体となり、特に企業チームは企業内に目を向けて集客に特化した試合を行いました。今シーズンは、まずは取り組んでみましょうということで始めましたが、各チームそれなりの成果が上がっており、多くの試合が1000人を超える集客になっており、2000人超えの試合も有ります。来シーズンはさらに充実させ「集客指定試合」をもとに新たなファン獲得、集客増を目指します。

各開催地では独自色のある取り組みを数多く行っていただき、興行として多くの会場で成功をしていただいております。来シーズンももっともっと多くの方々に会場に足を運んでいただけるように、開催地の皆様と一緒に努力を重ねてまいります。

日本リーグでは、各チームジュニアチームの保有を目指し、毎年夏に東西に分けリーグ戦を行い、プレーオフ決勝戦の午前中に東西1位同士が優勝決定戦を行います。

ジュニアチームは各リーグチームが指導を行っているチームで、チーム名にはトップチームの企業名もしくは愛称を付け、多くのチームはトップチームと同じユニフォームを着用して試合を行っています。予定では今年で全チームがジュニアチームの保有を完成させ、夏の試合に臨みます。

今年の優勝決定戦は、女子はオムロンジュニアピンディーズが北陸電力ジュニアブルーロケッツを倒し初優勝を、男子は北陸電力ジュニアブルーロケッツと琉球コラソンジュニアが同点で両チーム優勝でした。年々レベルが高くなり、将来

有望な選手も多くなっております。ここから将来の日本リーグ選手が誕生してくれることを深く望んでおります。

この大会開催には各チームオーナーの皆様のご理解があって成り立っております。引き続きご支援を賜りますようにこの場をお借りして、御礼とお願いを申しあげます。

その他日本リーグはチャレンジディビジョンを開催し、社会人、学生に活動の場を提供するために始め、今年で５回目になります。年々出場チームのエリアが広がっており、我々の目標である全国に広げて各ブロックで開催できるような活動を続け、１チームでも日本リーグに参戦出来るように支援も同時に行っていきます。

今年度のプレーオフは、女子を１チーム増やし、レギュラーシーズン男女それぞれ１位～４位までがプレーオフに出場いたしました。準決勝は女子が２試合とも延長戦、男子は２試合とも１点差の僅差のどこが勝ってもおかしくない試合でした。決勝にコマを進めたオムロン、北國銀行、トヨタ車体、大同特殊鋼の決勝も女子が２点差、男子が１点差で女子はオムロンが、男子は大同特殊鋼がそれぞれ３年連続 17 回目の優勝を飾りました。

今シーズンより全日本空輸株式会社様に冠スポンサーについて頂き「ANA CUP」として行われ、昨年に引き続き全日本空輸株式会社様より優勝チームには賞金が授与されました。

今年も両日とも満員のご来場をいただき、座席の確保ができず立ち見になったお客様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ご来場のお客様の変化に伴い、今年も株式会社セレスポ様のご協力のもと、ベビーカーお預かり所や授乳室を設置しご好評をいただきました。このお客様の変化は嬉しい限りで、ハンドボール未経験者の方が増えてきており、新たなハンドボールファンの拡大になってきているかと思います。

しかし現在のプレーオフに満足することなく、日本ハンドボール界最高の試合と運営を行いハンドボールのバリューアップにつなげたく努力を重ねていきます。プレーオフ運営に際しては、東京都ハンドボール協会、関東学生ハンドボール

連盟に多大なるご協力を賜り深く感謝申し上げます。

2019 年女子世界選手権、2020 年東京オリンピック開催が決まり、国内でのハンドボールレベル、人気を上げていかなければなりません。

日本リーグは代表選手の強化拠点であり、日本協会の方針のもとより一層厳しい試合を行い、選手、指導者のレベルアップを図っていきます。

また、チーム、開催地、運営サイドが一体となり、これからも子供たちのあこがれになるように、各試合の開催が国内ハンドボールの開催の手本となるように、多くの方々が日本リーグを見たいと思っていただけるように努力を重ねていきます。

ファンの皆様には来シーズンも引き続き応援いただきます様お願い申し上げます。

最後になりましたが、今シーズン日本ハンドボールリーグに対して多大なるご支援をいただきました、独立行政法人スポーツ振興センター様はじめスポンサー各社様にはこの場をお借りして心より御礼を申し上げます。

男子優勝

大同特殊鋼

第38回日本リーグプレーオフを終えて

大同特殊鋼ハンドボール部監督　末松　誠

はじめに、昨年9月に開幕したレギュラーシーズンから今回のプレーオフ終了まで、多くの関係者の方々に御協力、御尽力していただき心より感謝、御礼申し上げます。

この度、私たち大同特殊鋼フェニックスは第38回日本ハンドボールリーグプレーオフで3年連続17回目の優勝を果たすことが出来ました。これも一重に日頃から大同特殊鋼フェニックスを応援して下さっている社員の皆様、多くのファンの方々の支えがあってこその結果だと感じております。本当にありがとうございました。

レギュラーシーズンを振り返ると、11勝1分4敗の3位通過と、シーズンを通して苦しい戦いが続きました。そんな中でも、ベテラン勢の武田選手兼コーチ、地引主将、経験豊富な岸川、千々波、東、高等を中心にチームをまとめ上げ、持ち前のチームワークで厳しい試合も最後まであきらめずチーム一丸で乗り越え、一つ一つ勝ち星を積み重ねていくことができました。それと並行しながら平子、久保（龍)、内定者の石橋等の若手選手も経験を積み、チーム全体の底上げが出来ました。

プレーオフ準決勝の大崎電気との対戦では、序盤からお互いに主導権を奪い合う激しい試合となりましたが、選手各人が自分の役割を徹底し、チームと仲間を信じ合って戦った結果、非常に苦しい試合でしたが接戦を物にし、決勝に駒を進める事が出来ました。決勝戦のレギュラーシーズン1位であるトヨタ車体との対戦では、前半が終わって5点リードとなりましたが、後半ではレギュラーシーズン1位の底力で驚異的な追い上げを受け、最後の1秒まで気の抜けない非常に苦しい試合となりました。苦しい時こそコート上で戦っている選手達が協力し合い、最後まで自分たちのハンドボールを貫き抜いてくれた結果、1点差で勝利を勝ち取り優勝という最高の結果を果すことが出来ました。

この1年間、苦しい練習や試合に対して選手一人一人がチームスローガンである「挑戦」することを常に意識し、貫いてくれたこと。また、チームとしても、ベテランがチームをまとめ、中堅がチームを引っ張り、若手が思い切ったプレーで全体に勢いを与えました。そして、プレー以外でも選手がチームの為に何が出来るかを常に考え自ら行動してくれたことが、今回の優勝という結果に結びついたのだと感じています。そんな最高の選手達に対し最大の賛辞を贈るのと同時に、感謝の気持ちでいっぱいです。また、私自身も選手達に負けないように、これからも日々精進し、選手達の力になれるように最大限の努力をしていきたいと感じています。

今シーズンが終了すると同時に来シーズンがスタートしますが、まずは日本のチャンピオンチームとして出場する東アジアクラブ選手権大会に向け、心を新たに頑張って行きたいと思います。これからも、大同特殊鋼フェニックスらしいハンドボールをファンの皆様にお見せ出来るよう、選手、スタッフ一丸となり「挑戦」し続けていきますので、引き続き暖かいご声援よろしくお願い申し上げます。

プレーオフV3達成

大同特殊鋼ハンドボール部　野村 喜亮

3月8日、9日に駒沢体育館で行われた第38回日本リーグプレーオフで、3年連続17回目の優勝を達成する事ができました。いつも応援して下さった、会社の方々、ファン皆さん、家族、そして一緒に苦楽を共にし闘ったチームメイトに心から感謝しています。

今シーズンを振り返ると決して常に良いチーム状態ではありませんでした。出だしこそ好調でしたが、シーズンが進むにつれ徐々に接戦が多くなり、苦しい試合が続きました。チームも悪い方向に傾きかけたことも何度もありましたが、ベテランの先輩方が強いリーダーシップでチームをまとめてくれ、それに中堅、若手がしっかりと付いて行く形で徐々にチーム状態も良くなり、持ち前の「チームワーク」で苦しい時期もチーム一丸となり乗り越えてきました。

プレーオフでも、この「チームワーク」を武器に厳しい試合が続きましたが、苦しい時に全員で一つにまとまり戦えた事がプレーオフ優勝という最高の結果として表れたのではないかと感じます。また、今回のプレーオフでは最高殊勲選手賞をいただき、とても光栄に思うと同時に、日頃指導していただいている監督、コーチをはじめ、多くの方からアドバイスをいただいたお陰だと思っています。そして何より、苦しい時に声を掛け合い、励まし合い、苦難を一緒に乗り越えてきたチームメイト全員に感謝します。

今シーズンは最高の形で締めくくれる事が出来ましたが、今回の結果に満足することなく、来シーズンも、昨年獲得出来なかったタイトル奪取に向け、チームとしても、私自身としても、よりいっそうの努力を重ねていきます。

最後に、今回の優勝にあたり、日頃から暖かい声で「頑張れ」と応援してくれる会社の方、会場に足を運んでいただいた多くのファン・サポーターの皆様、本当にありがとうございました。これからも、観ている方々に夢と感動を与えられるチーム・選手を目指して頑張りますので、今後とも暖かいご声援をよろしくお願いします。

女子優勝

オムロン

第38回 Play Off 優勝について

オムロンハンドボール部ヘッドコーチ　黄　慶泳

第38回ANA CUPプレーオフにおいて3年連続17回目の優勝が出来て心から嬉しく思っております。

今年度はオムロン創業80周年の記念の年でもあり、『ハンドボールを通して貢献をする』というチームの合言葉で1年間戦ってまいりました。結果として今年最大のタイトルである日本リーグプレーオフで優勝を勝ち取ることができましたので、本当に心から安堵しております。

準決勝のソニー戦は延長戦の末の勝利、決勝の北國銀行戦は追い上げる展開からの逆転勝利で大変厳しい戦いでありました。そのような展開でも最後まで選手が諦めないで戦ってくれたことは、会社の全面的なサポートがあり、試合会場をピンク色に染めて大声援を送ってくださった皆様方の後押しがあったからだと思っております。本当にありがとうございました。

又、チームの西窪ＧＭ代行から私に対して、指導者としての考え方、チームのあり方等々に関するアドバイスをプレーオフ直前に頂いた事が、今回の選手達の最後の粘りに繋がったと思います。色々な言葉の中でもっとも大事に選手たちに伝えたのは、戦いの粘りから勝ちきる力と勝利に対する執念というのは厳しいトレーニングで鍛えられることもあるが、感謝の気持ちを持った行動、挨拶、聞く態度等々の人間力が支えてくれるという言葉でした。プレーオフでは必ず接戦をすると予想した中で、私は自分の言葉として選手たちにその言葉を伝えてありましたが、それが本当に最後まで粘って戦えた原動力であったと考えます。いつもどこかでヒントを下さる西窪さんに本当に心から感謝しております。

試合内容を振り返ってみると対戦相手チームの戦う気合いは勿論ですが、戦術的にも非常に研究されていて予想以上にプレッシャーをかけられた戦いであったと思います。

これからも今まで以上に様々な戦術・戦略の中で戦わなければならない厳しい状況が予想されますし、プレーオフの戦いを踏まえて危機感を抱くと同時にそれを上回る努力と研究が必要であると改めて感じております。今に満足することなく新年度も新たな気持ちで取り組んでまいりますので、引き続きオムロンハンドボールチームのご声援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、大会の運営に携われました関係者の皆様方に心からお礼申し上げまして優勝のご報告と致します。本当にありがとうございました。

プレーオフ優勝について

オムロンハンドボール部　藤間かおり

第38回日本ハンドボールリーグプレーオフにおいて3年連続17回目の優勝という最高の結果を残すことができました。またオムロン創業80周年という記念すべき年に花を添える事ができ、私達も心から嬉しく思っております。これもひとえに日頃からオムロンハンドボール部を支えてくださっているオムロングループの皆様を始め、いつも試合会場に足を運んでいただき熱い声援を送ってくださるサポーターの支えがあってこその結果だと感謝の気持ちで一杯です。

準決勝のソニーセミコンダクタ戦は攻守共に激しい展開が続き延長戦の末25対22で勝利し、決勝戦は北國銀行との対戦。いいスタートはしたものの、相手の速攻・思いっきりのある攻撃・アグレッシブなDFに後半リードを許す内容ではありましたが、結果的には25対23で逆転勝利し優勝することができました。

準決勝・決勝共に大変厳しい戦いでしたが、最後まで諦めない気持ちや勝ちに対する執念そして、今シーズンの『プラスワン』というチームスローガンがこのプレーオフで発揮できたと思います。

試合に出る選手・ポイントで入る交代選手・ユニフォームを着ることが無くてもチームの為に働いてくれた選手。試合会場をピンク色に染めて大声援を送って下さった方々、そういう力が1つになり『TEAM・OMRON』で勝ち取った優勝だと思います。

今回、最高殊勲選手賞という賞を頂けたのも、スタッフを始め、チームメイトや私を応援し支えて下さった方々のお陰だと思っておりますし、感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。これからも先輩方が築き上げて下さった伝統を守り続け、『より強く・より美しく』強いオムロンでいられるように、新年度も新たな気持ちで頑張っていきたいと思います。今後ともオムロンハンドボール部を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、今大会の開催にあたりご尽力頂きました関係者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

戦評

男子

■準決勝（3月8日）

トヨタ車体　30（17-10, 13-19）29　湧永製薬

プライドとフィジカルのぶつかりあい、リーグ1位トヨタ車体が激戦制す

湧永製薬のスローオフで試合開始。両者とも序盤は6-0ディフェンス。湧永は13番新の連続速攻などで3対1とリードする。対するトヨタ車体は5番高智の連続得点ですぐに追いつく。湧永は5番成田を中心とした堅い守りからの速攻で突き放そうとするが、トヨタ車体も強いフィジカルを生かしたプレーで対抗し前半15分まで互角の戦い。均衡を破ったのはトヨタ車体22番門山の豪快なロングシュート。その後トヨタ車体が20番渡部のサイドシュートで突き放す。このまま点差を広げるかと思われたが、トヨタ車体が退場者を出してしまう。しかし、GK21番甲斐のファインセーブでピンチを脱し、流れを掴んだトヨタ車体は22番門山の連続得点で点差を広げる。湧永はトヨタ車体22番門山へのマークを強めるが、勢いに乗ったトヨタ車体は15番鶴谷、18番崎前の両サイドの活躍、絶好調22番門山のシュートで、一挙に17対10と点差を広げ前半終了。

後半開始すぐ湧永は13番新の速攻で得点する。湧永はGK1番志水のファインセーブが続き、流れを掴みたいところで退場者を出してしまう。しかしその後の7mスローをGK1番志水がセーブ。再度湧永が流れを掴みかけたところで、トヨタ車体のサイドシュートや速攻が決まり点差が縮まらない。前半14分で25対15と点差が開いた。しかし、湧永は7番東江のミドルシュート、5番成田の打点の高い豪快なロングシュートでくらいつき、その勢を止めるためにトヨタ車体はコンタクトを強めるが、連続で退場者を出してしまい、この間に、湧永は8連続得点で一挙に2点差まで詰め寄る。ここで湧永、トヨタ車体共に退場者を出してしまう。湧永は5番成田のロングシュートで1点差まで詰め寄るが、後半23分に痛恨の退場者を出してしまう。このチャンスをトヨタ車体はしっかり生かし、堅実なプレーで25分過ぎで3点差をつける。残り2分、湧永の怒涛の攻撃で1点差まで詰めより最後まで目が離せない激闘を繰り広げ、最後はトヨタ車体が勝利した。

大同特殊鋼　30（12-12, 18-17）29　大崎電気

両チーム、タイムアップの瞬間まで全力を尽くした白熱の好ゲーム！

満員の大観衆の中、大崎電気のスローオフで試合開始。最初の得点は大崎電気の8番東長濱の7mスロー。その後、めまぐるしい攻守の交代で速攻の応酬。両チームディフェンスがしっかり機能し、GKの堅守も光り全く譲らない攻防が続く。しかし、前半14分過ぎに大崎電気は退場者を出してしまうが、その退場時間中に7番宮崎から13番ポスト森へのパスが連続で決まり、ピンチを凌ぐ。その後一進一退の攻防が続く。先に流れを掴んだ大崎は点差を広げ、退場者も出すが24番信太がロングシュートを決める。大同もサイドシュートで点を取り返しディフェンスラインをさらに高くし、速攻から5番石橋サイドシュート、前半終了直前に9番武田のシュートも決まり、12対12で前半が終了。

後半開始後も両者一歩も引かず、大同3番野村のロングシュートが連続で決まり、対する大崎も速攻やポストシュートで得点を重ねる。中盤に大崎電気25番ルーキー元木が連続で速攻を決め、大同もサイドシュートで得点を重ねる。大崎は18分過ぎに退場者を出し、大同はこのチャンスに15番山城のサイドシュート、10番岸川のカットインで逆転、さらに速攻で2点差までつけた所で大同に退場者が出る。しかし、大崎もこのチャンスに痛恨の退場者を出してしまう。ピンチを凌いだ大同が勢いを取り戻し、13番加藤のポストシュートが決まり、4点差に広がる。大崎は24番信太の怒涛の3連続ゴールで1点差まで詰め寄るが、終了間際に大同10番岸川のシュートで2点差、大崎24番信太のゴールで1点差となったところでタイムアップ。激闘の幕切れとなった。

■決勝（3月9日）

大同特殊鋼　32（20-15, 12-16）31　トヨタ車体

大同特殊鋼、リーグ1位トヨタ車体に大金星、3年連続の王者に！

トヨタ車体のスローオフにより、この1年間の最強チームを決めるプレーオフの火蓋が切られる。大同特殊鋼9番武田が速攻からミドルシュートを放ち、この試合初得点。すかさずトヨタ車体の20番渡部の7mスローで取り返す。両チームのサイド、フローター陣の強烈なシュートで得点を奪い合うが前半9分6対6の同点と両者全く譲らない展開。最初に流れを掴んだのは、トヨタ車体。トヨタ車体はサイド18番崎前が連続得点などで大同特殊鋼ディフェンスを翻弄し、前半15分10対8と2点リードする。しかし、大同特殊鋼も前半19分トヨタ車体に退場者が出た間に7mスローを3番野村が決めて11対11同点に追いつく。その後、大同特殊鋼が3番野村のカットイン、22番高の速攻などで4連続得点し15対12と3点とリードする。さらに、ラスト1分10番岸川のステップシュートなど3連続得点し、20対15大同特殊鋼5点差リードで前半が終了した

後半立ち上がり、大同特殊鋼が2回退場者を出してしまい、トヨタ車体はこのチャンスを生かして後半7分22対19の3点差に詰め寄る。ここからは両チームを足を生かしたスピーディーな攻撃でお互いに得点を重ね、3点差のまま後半10分が過ぎる。後半15分、大同特殊鋼は11番平子が7mスロー決めて29対23と6点差リードに戻す。後半17分、大同特殊鋼22番高がディフェンスの裏をかいた巧みなポストパスを13番加藤が決め31対23、最大得点差の8点差となる。何とか追いつきたいトヨタ車体はディフェンスラインを少し高めにあげ、後半26分トヨタ車体10番木切倉が相手に挟まれながらも果敢にカットインシュートを決め2点差につめ、大同特殊鋼は退場者を出してしまいこの試合最大の危機を向かえる。トヨタ車体3番石戸の気合のこもったミドルシュートが突き刺さり、後半27分31対30の1点差となる。終了間際、トヨタ車体は7人攻撃で1点差まで詰めるが試合終了。大同特殊鋼がリーグ1位の意地で必死に追いすがるトヨタ車体を32対31で退け、3年連続17回目の優勝で幕を閉じた。

戦　評

女　子

■準決勝（3月8日）

オムロン　25(10-10,9-9,2-0,4-3)22　ソニーセミコンダクタ

70分の激闘の末、リーグ1位のオムロンが決勝へ！

両チーム応援団の大声援の中、ブルーのユニフォーム、ソニーのスローオフで試合開始。オムロンは高さを生かした6-0ディフェンス、対するソニーは非常に高い位置でのディフェンス。両チーム、豊富な運動量で積極的にボールを奪いに行く。立ち上がりから、両チーム共に堅い守りが崩せず、ロースコアの展開となる。オムロンは退場者を出すが、ソニーはそのチャンスを生かしきれず、前半20分で7対7。激しいぶつかりあいが続くが両者全く譲らず、なかなか得点に繋がらない。前半24分、オムロンは8番石立が退場となり、ピンチを迎えるがGK1番藤間が7mスローを阻止。その後一人少ないオムロン7番藤井が7mスローを決め、前半27分で10対8と一歩リードする。しかし、ソニーも前半28分にフォーメーションプレーから13番石井がサイドシュートを決め、さらに速攻で13番石井が連続得点、10対10で前半終了。

後半に入り、速攻からオムロン17番東濱がカットインで得点、しかしその後ソニー5番田中のシュートが決まり、後半も全く互角の展開。オムロンは7番藤井のミドルシュートや速攻で得点するが、ソニーもフォーメーションプレーや速攻で得点する。試合が動いたのは、オムロンが退場者を出した後半10分。ソニーの4番高橋の速攻、13番石井のサイドシュートなどで16対14とリードを奪う。ここでオムロンはタイムアウトを取得し流れを呼び戻そうとするが、ソニーGK12番飛田の好セーブもあり攻め切れない。このまま流れはソニーに傾くかと思われたが、オムロンGK1番藤間がサイドシュートをセーブして、速攻につなげ、後半15分で16対16とする。一進一退の攻防が続く中、後半25分18対18でオムロンは痛恨の退場。最大のピンチを迎えるが、必死のディフェンスで無得点に抑える。27分過ぎにオムロン10番相澤がリバウンドをシュートにつなげ、19対18と勝ち越すが、29分にソニー18番藤井がカットインから同点ゴールを決め追いつき、延長戦となる。

延長に入っても、両者のディフェンスの足は止まらず、必死の攻防。3分過ぎまで両者無得点の均衡をオムロン7番藤井のロングシュート、17番東濱のステップシュートで21対19と突き放す。しかし、延長後半ソニーも13番石井のサイドシュートが決まり、21対20。緊迫の展開が続くが、オムロンは残り2分から速攻やポストプレーで得点を重ねオムロンが勝利した。

北國銀行　25(14-11,8-11,2-1,1-0)23　広島メイプルレッズ

北國銀行、執念の勝利!!

レギュラーシーズン2位の広島メイプルレッズ対同3位の北國銀行の戦い。北國銀行のスローオフで試合開始。広島メイプルレッズは中盤になってミスが続くが、北國銀行もシュートミスが多く、点差は離れず互角の展開を繰り広げる。終盤、北國銀行のディフェンスに対して広島メイプルレッズが攻めきれず、そのチャンスを北國銀行が生かし4連続得点などで14対11で前半を終了した。

後半は序盤から北國銀行がセットプレーで広島メイプルをかき回し、ノーマークシュートを打つが広島メイプルレッズGK16番田口のファインセーブなどで得点が伸びない。逆に広島メイプルレッズがセットプレーを確実に決め、7番宋の得点などで10分過ぎに同点に追いつく。その後も広島メイプルレッズは7番宋をきっかけに攻撃を組み立てて北國銀行を追いかけた。北國銀行も5番塩田、7番田邉のセットプレーから得点をあげる。20分以降、両GKのファインセーブ、ディフェンスの激しさが増し得点が入らない展開となった。25分過ぎに広島メイプルレッズ7番宋が同点ゴールを決め、15番高山が逆転ゴール決めた。北國銀行最後のチャンスで5番塩田のロングシュートで同点に追いつき延長戦となる。

延長前半、広島メイプル7番宋のカットインから得点で1点リード。北國銀行も5番塩田のカットインから7mスローを獲得、14番河田が確実に決め同点。5番塩田のロングシュートで得点し1点リードで前半終了。

延長後半広島メイプルが怒涛の攻撃を見せるも北國銀行は意地の守りを見せる。北國銀行は最後に9番横嶋がダメ押しゴールを決め25-23で北國銀行が勝利した。

■決勝（3月9日）

オムロン　25（14-13, 11-10）23　北國銀行

オムロン、ねばる北國を退け、プレーオフ優勝！

北國銀行のスローオフで試合が開始。まずはオムロンが7mスロー獲得し、オムロン7番藤井が確実に決め先制点。北國銀行も13番横嶋彩がミドルシュート、9番横嶋かおるがポストシュートを決めるが、その後、オムロンが怒涛の攻撃でリードを奪う。北國銀行も13番横嶋彩が立続けにシュートを決めるが、オムロンも5番稲葉、11番永田が確実にシュートを決めリードを守る展開。終盤に交代した19番ルーキー角南のミドルシュートが決まると流れが変わり同点に。その後、両チーム共に得点を取り合い14対13でオムロンが1点リードし前半を終えた。

後半開始直後に北國銀行横嶋彩のカットインから7mスロー獲得し同点に、オムロンは7番藤井、17番東濱がミドルシュートを狙うがGK1番寺田の好セーブを見せる。その流れを生かし13番横嶋彩、14番河田がシュートを決め逆転する。オムロンは北國銀行の6番石野の退場を機に次々と攻撃を仕掛けるが、北國銀行GK寺田の好セーブに阻まれ点差を縮められない。終盤に差し掛かりオムロンは、北國銀行13番横嶋彩にマンツーマンディフェンスを付ける。北國銀行は攻めあぐね、オムロンのペースとなりじわじわ得点を詰めていく。23分過ぎに北國銀行が7mスローを獲得するが、オムロンGK12番山中がファインセーブ、その後、オムロンも7mスローを獲得し、北國銀行1番GK寺田がファインセーブ。22分以降得点が止まった北國銀行に対して、オムロンは確実に得点を重ねて逆転。残り1分を切って2点差になった所で北國銀行が7mスローを獲得。しかし、オムロンGK1番藤間のファインセーブ。オムロンが劇的な逆転で優勝を飾った。

PHOTO SNAP ANA CUP 第38回日本ハンドボールリーグ プレーオフ

光り輝く会場、会場に響き渡る声。そして国歌斉唱、3000人近い観客のなか、実際に空いている席が全くないくらいで、何人も立ち見している姿が見受けられる。また会場の裏方として、元選手達が運営に携わっている姿が見受けられ、素晴らしい舞台を用意してもらえた。「最高のトキをありがとうございました。」そんな舞台でANA CUP第38回日本ハンドボールリーグ プレーオフが開催された。

（機関誌委員会　長谷川千紗）

北國銀行：横嶋かおる選手の果敢なポストプレイ

オムロン：石立選手の速攻

国際審判、島尻・太田ペアが女子決勝を担当

女子MVPのオムロン：藤間選手（GK）

オムロン優勝の瞬間

男子MVPの大同特殊鋼：野村選手（右）と新人の石橋選手

大同特殊鋼の守護神：久保選手
果敢なサイドシュートのトヨタ車体：崎前選手

大同特殊鋼：武田選手の豪快なシュート

トヨタ車体：門山選手の7人攻撃

大同特殊鋼：優勝の瞬間から

大同特殊鋼：喜びの全員集合でのスナップ

順位表　レギュラーシーズン

男子

順位	チーム	車体	大崎	大同	湧永	琉球	東日本	紡織	合成	北電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	トヨタ車体		30○29 28△28	30○25 27○26	25●26 23○20	32○28 19○14	33○23 32○25	29○24 28●29	27△27 27○21	33○21 34○18	16	12	2	2	457	384	73	26
2.	大崎電気	29●30 28△28		26●28 30●35	30○27 30○26	25○21 31○24	33○32 32○22	33○28 37○29	25○22 34○21	36○24 30○17	16	12	1	3	489	414	75	25
3.	大同特殊鋼	25●30 26●27	28○26 35○30		21○19 26●28	21○17 23△23	29○27 24●29	30○24 32○25	30○22 32○24	34○18 31○16	16	11	1	4	447	385	62	23
4.	湧永製薬	26○25 20●23	27●30 26●30	19●21 28○26		34○22 22●25	29△29 26○24	30●34 31○27	26○22 30○28	23○19 21○20	16	9	1	6	418	405	13	19
5.	琉球コラソン	28●32 14●19	21●25 24●31	17●21 23△23	22●34 25○22		31○27 21○18	22●23 24○23	27○26 33○22	25○20 32○20	16	8	1	7	389	386	3	17
6.	トヨタ自動車東日本	23●33 25●32	32●33 22●32	27●29 29○24	29△29 24●26	27●31 18●21		24●41 34○29	33○30 30○27	32○22 29○24	16	6	1	9	438	463	-25	13
7.	トヨタ紡織九州	24●29 29○28	28●33 29●37	24●30 25●32	34○30 27●31	23○22 23●24	41○24 29●34		33●34 26●27	34○24 33○28	16	6	0	10	462	467	-5	12
8.	豊田合成	27△27 21●27	22●25 21●34	22●30 24●32	22●26 28●30	26●27 22●33	30●33 27●30	34○33 27○26		27○23 24○21	16	4	1	11	404	457	-53	9
9.	北陸電力	21●33 18●34	24●36 17●30	18●34 16●31	19●23 20●21	20●25 20●32	22●32 24●29	24●34 28●33	23●27 21●24		16	0	0	16	335	478	-143	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

女子

順位	チーム	オムロン	メイプル	北國銀行	ソニー	三重	高山	名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	オムロン		24○23 22●24 27●30	26△26 27○19 25○19	22○21 25△25 26○24	24○17 32○12 35○13	23○21 31○9 37○10	24○7 30○16 35○7	18	14	2	2	495	323	172	30
2.	広島メイプルレッズ	23●24 24○22 30○27		22●33 28○21 26●27	26○22 27○20 24△24	30○25 28○20 32○16	39○17 34○16 30○20	30○14 32○19 39○21	18	14	1	3	524	388	136	29
3.	北國銀行	26△26 19●27 19●25	33○22 21●28 27○26		21○20 21○19 26●27	28○17 35○21 27○14	28○15 35○16 30○12	32○13 36○10 27○9	18	13	1	4	491	347	144	27
4.	ソニーセミコンダクタ	21●22 25△25 24●26	22●26 20●27 24△24	20●21 19●21 27○26		26○19 21○19 27●30	25○16 28○16 26○12	28○8 28○18 32○10	18	9	2	7	443	366	77	20
5.	三重バイオレットアイリス	17●24 12●32 13●35	25●30 20●28 16●32	17●28 21●35 14●27	19●26 19●21 30○27		25○19 24○18 30○14	23○16 25○11 24○14	18	7	0	11	374	437	-63	14
6.	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	21●23 9●31 10●37	17●39 16●34 20●30	15●28 16●35 12●30	16●25 16●28 12●26	19●25 18●24 14●30		21○18 21○20 15●19	18	2	0	16	288	502	-214	4
7.	HC名古屋	7●24 16●30 7●35	14●30 19●32 21●39	13●32 10●36 9●27	8●28 18●28 10●32	16●23 11●25 14●24	18●21 20●21 19○15		18	1	0	17	250	502	-252	2

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

個人表彰

男子

〈プレーオフ表彰〉

賞	氏名（所属）		
最高殊勲選手賞	野村喜亮（大同特殊鋼）	初	
最優秀監督賞	末松　誠（大同特殊鋼）	2回目	
殊勲選手賞	木切倉真一（トヨタ車体）	初	

〈レギュラーシーズン表彰〉

賞	氏名（所属）		
最優秀選手賞	豊田賢治（大崎電気）	初	
ベストセブン賞	甲斐昭人（トヨタ車体）	初	
	信太弘樹（大崎電気）	初	
	成田幸平（湧永製薬）	初	
	東長濱秀希（大崎電気）	4回目	
	加藤嵩士（大同特殊鋼）	初	
	村上秀行（トヨタ紡織九州）	6回目	
	豊田賢治（大崎電気）	6回目	
ベストディフェンダー賞	富田恭介（トヨタ車体）	5回目	
新人賞	玉井宏章（トヨタ自動車東日本）		
得点王	玉井宏章（トヨタ自動車東日本）	107点	初
フィールド得点賞	成田幸平（湧永製薬）	95点	初
シュート率賞	豊田賢治（大崎電気）	0.704	初
7mスロー得点賞	藤山岳士（トヨタ紡織九州）	25点	初
7mスロー阻止率賞	内田武志（琉球コラソン）	0.524(11/21)	初
シュート阻止率賞	甲斐昭人（トヨタ車体）	0.430(189/440)	2回目
フェアプレー賞	大同特殊鋼	96点／16試合（6.000点／試合）	3回目
	豊田合成	96点／16試合（6.000点／試合）	2回目

女子

〈プレーオフ表彰〉

賞	氏名（所属）		
最高殊勲選手賞	藤間かおり（オムロン）	2回目	
最優秀監督賞	黄慶泳（オムロン）	7回目	
殊勲選手賞	横嶋彩（北國銀行）	初	

＜レギュラーシーズン表彰＞

賞	氏名（所属）		
最優秀選手賞	藤井紫緒（オムロン）	2回目	
ベストセブン賞	藤間かおり（オムロン）	2回目	
	藤井紫緒（オムロン）	5回目	
	宋海林（広島メイプルレッズ）	2回目	
	石立真悠子（オムロン）	初	
	高山智恵（広島メイプルレッズ）	3回目	
	田邉夕貴（北國銀行）	初	
	髙橋恵（ソニーセミコンダクタ）	3回目	
ベストディフェンダー賞	永田しおり（オムロン）	初	
新人賞	原希美（三重バイオレットアイリス）		
得点王	宋海林（広島メイプルレッズ）	145点	2回目
フィールド得点賞	宋海林（広島メイプルレッズ）	120点	初
シュート率賞	横嶋かおる（北國銀行）	0.816	4回目
7mスロー得点賞	河田知美（北國銀行）	46点	初
7mスロー阻止率賞	毛利久美（三重バイオレットアイリス）	0.300(12/40)	初
シュート阻止率賞	藤間かおり（オムロン）	0.505(245/485)	2回目
フェアプレー賞	北國銀行	72点／18試合（4.000点／試合）	2回目

平成25年度

第37回全国高等学校ハンドボール選抜大会

男子：興南は、9年振り5回目の優勝

女子：佼成学園女子は、2年連続2回目の優勝

最終順位

【男子】

優　勝：興南高等学校（沖縄県）
準優勝：春日丘高等学校（愛知県）
3　位：横浜創学館高等学校（神奈川県）
　　　　法政大学第二高等学校（神奈川県）

【女子】

優　勝：佼成学園女子高等学校（東京都）
準優勝：愛知県立愛知商業高等学校（愛知県）
3　位：四天王寺高等学校（大阪府）
　　　　富山県立氷見高等学校（富山県）

個人表彰

	【男子】	【女子】
［最優秀選手］	下地 利輝（興南7）	斗米 菜月（佼成学園2）
［優秀選手］	庄山 大地（横浜創学館3）	山根 楓（四天王寺10）
	福本 直也（法政大学第二2）	藤 亜希子（氷見2）
	佐野 利器（春日丘2）	村松 沙耶（愛知商業4）
	今井 悠貴（春日丘5）	丹羽 遥（愛知商業5）
	伊舎堂 博武（興南3）	初見実椰子（佼成学園3）
	田里 亮稀（興南5）	河原畑 祐子（佼成学園4）
	宮國 央芽（興南16）	大沢 アビ直美（佼成学園16）

第37回全国高等学校ハンドボール選抜大会を振り返って

愛知県高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長（大会実行委員会事務局） 伊藤 諭志

「愛知に集結　努力と絆」愛知県の高校生から募って選ばれた大会スローガンのもと、スカイホール豊田４面をメインに岡崎中央総合公園総合体育館２面を会場にして、第 37 回全国高等学校ハンドボール選抜大会が開催されました。愛知県での開催は 15 年ぶり 20 回目となります。第１回から 21 回までの間、２回の山口県での開催を除き 19 回愛知県体育館を中心に開催してきました。第１回大会参加チームは、各ブロック１と開催地１の男女各 10 チームでした。そして昨年の静岡大会から男女各 41 チーム（一昨年前までは 40 チーム）。また今大会より１チーム選手 16 名（昨年までは 14 名）となり、少しずつ大会規模が広がり大きな大会になってきました。愛知県協会関係者にはとりわけ感慨の深いものがあります。

３月 24 日開会式。阿部富夫競技委員長による開会宣言の後、優勝杯・優勝旗・アシックス杯の返還、レプリカ授与。その後、地元愛知県の男子、春日丘高校の佐野利器主将と女子、愛知商業高校の北島未歩主将による力強い選手宣誓が行われ、引き続き静岡県への先催県表彰。県内の高校生から大会スローガン、マスコット、ポスターを募り採用された優秀作品への表彰を行いまいした。

今大会の出場校は、23 年連続出場の洛北高校女子を筆頭に常連校が連続出場を重ねる中、初出場は男子１校、女子３校。久々にセンバツの切符をつかみ取った常連校も。そして東海ブロックを勝ち抜いて２枠をゲットした地元愛知県が愛知枠（100 以上のチーム登録数）と開催地枠で男女各４チーム出場できたことは、大会史上初のことであり、県内高校関係者は大きな喜びとなりました。

競技初日（25 日）、スカイホール豊田４コートで熱戦の火蓋が切られ、２日目（26 日）には、岡崎会場の２コートを加え、６面で２回戦男女 16 試合ずつを展開、ここで岡崎城西高校も登場。地元の大声援を背に初戦を突破した。

大会３日目からは有料大会にしました。有料大会にふさわしい会場を用意し、それに見合う運営を追及していく覚悟で、また有料にすることがハンドボールの価値を上げることになると考えて行いました。出場チームの応援の方々にはご負担をかけることになりますが、是非ご理解を頂きたいところです。

４日目（28 日）、大きなアリーナの中央に観客席を設置し、男女準々決勝の舞台となるそれぞれのコートを観客が取り囲んで応援できるようにレイアウトしました。試合後、準決勝、決勝の舞台となるコートと、表彰式、閉会式をスムーズに開催できるよう設営し、セミファイナルを迎えました。

準決勝では地元愛知県予選３位で出場の大同大大同高校女子が、強豪氷見高校女子を相手に手に汗握る熱戦を展開し延長戦に突入。延長でも決着がつかず、７ｍスローコンテストに。最後に 12 投目で決着がつく大健闘でした。敗れはしたものの地元開催を大いに盛り上げてくれました。

そして、さらには最終日ファイナルに男女愛知県のチームが残る快挙。いよいよセンバツ大会のフィナーレが近づいてきたと、胸が高鳴る思いでした。

女子決勝は、佼成学園女子ー県立愛知商業、男子決勝は、興南ー春日丘、決勝に残った男女４チームとも存分にハンドボールの魅力と醍醐味を披露してくれました。会場の誰もが、選手の一つ一つのプレーに見入るような「感動の決勝戦」でした。ここに、出場チームの健闘を称え、これまで精進してきた選手と指導していただきました監督スタッフに心からの感謝と敬意を表しますと共に、インターハイ、国体に向けて志を高く掲げて更なる向上を目指していただきますよう祈念します。

日本協会、全国高体連専門部、TD、審判員ほか競技役員（愛知県協会・豊田市協会・岡崎協会、愛知県高体連専門部）が一体となって、大会をやり遂げることができました。年度末の大会であり、人事異動、新年度に向けての会議等、各人が多忙の中での大会運営は大変でしたが、それでも、大会を無事終えることができたのは、関係者の皆様のご尽力のおかげです。まさにスローガンの「愛知に集結　努力と絆」が「愛知が団結し、努力と絆が実を結んだ大会」となりました。しかし、各チームの皆様には、宿泊地が広域に渡り、色々とご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

結びに、出場チームが見せてくれた渾身のプレーは、この愛知の地で確かな足跡となりました。このことが、ハンドボールファンの拡がり、ハンドボール競技の価値向上、東京オリンピックに臨む日本代表チームへの追い風となってくれたら幸いです。この愛知での選抜大会開催に関わって、ご支援ご協力を頂きました関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げますと共に、2014 神奈川県での全国総体が成功されますことを心よりご祈念申し上げて、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【写真提供：スポーツイベント社】

［男子優勝］興南高等学校（沖縄県）

興南高等学校ハンドボール部監督　**黒島 宣昭**

平成25年度第37回全国高等学校ハンドボール選抜大会にて、9年ぶり5回目の優勝を果たす事が出来ました。これも偏に、いつもチームを支えてくださる学校関係者をはじめ、県ハンドボール協会・父母会・後援会・OB会の力強いサポートがあったからこそ成し得た結果だと思っています。感謝申し上げます。

【写真提供：スポーツイベント社】

さて、振り返れば、2月15日に組み合わせが決まり、今大会は、かなり厳しい戦いになるのではないかと予想をしていました。2回戦岐阜東・3回戦桃山学院の試合では、ちょっと不安な気持ちを持って望んだのですが、私の心配とは別に、選手達はしっかりと練習してきたことを自分たちのペースを守り勝利する事が出来ました。4回戦藤代紫水、準決勝横浜創学館もかなり厳しい戦いでありました。前半は接戦で、後半は、どう転ぶか分からないゲーム展開ではありましたがディフェンスで最後まで粘っての勝利で決勝に駒を進める事が出来ました。決勝戦の相手は愛知県代表の春日丘高校です。初めて対戦するチームで、高さとスピードがあり、バランスのとれた得点力の高いチームだなという印象を受けました。その決勝ですが、先取点を取って良いスタートが切れたと思ったのですが、すぐに同点、その後、緊張からか単調にシュートを打ったりパスミスをしたりして、逆に速攻で得点されて、前半スタート8分で、6対3とリードされた時点でたまらずタイムを要求しました。「もう一度、ディフェンスと攻撃を確認させ、楽しくプレイをしてこい」と送り出しました。その後、徐々に本来の自分達のペースを取り戻して逆転して前半を14対11と3点リードで折り返しました。後半でも、相手のミスから速攻で得点するという興南の持ち味が出せたゲーム展開でありました。最高の舞台で、最高のプレイ、最高のゲームができたとに大変に嬉しく思います。今大会での大きな勝因は、チームの「和」はもちろん、ディフェンスの「集中力」であったと思います。

最後になりますが、小学校・中学校の指導者の方々が、手塩にかけて育ててくれた素晴らしい選手達に、めぐり逢えたことにとても感謝しています。ありがとうございます。今後とも「感謝の気持ち」を忘れずに、自惚れず、謙虚な気持ちを忘れずに、これからも日々努力していきたいと思っています。

【写真提供：スポーツイベント社】

［女子優勝］佼成学園女子高等学校（東京都）

佼成学園女子高等学校監督　石川 浩和

《喜びよりも運と運営に感謝》

実に幸運でした。全国選抜大会２連覇という文字だけ眺めれば、たいそうなことをやり遂げたように見えますし、この日のために厳しい練習に耐えてきた選手たちにも歓喜を爆発させ、わざわざ東京からバスをチャーターして疲労にめげずに観戦に駆けつけた応援の方々も心から私たちを祝してくださいました。

けれども、へそ曲がりなのか、私はどうしても今ひとつ心が高まらないのです。少なくとも昨年の優勝のような喜びはなく、胸に広がったのはむしろ安堵感でした。

理由は、選手たち個々の実力がほとんど出ず、勝てたのが不思議くらいでした。それは試合のスコアを見ても明白です。最後に優勝を競った愛知商業高は、決勝まで大差の試合が多いのですが、私たちときたら僅差の連続でした。

「やっぱり全国大会だから、その雰囲気にのまれたのだろう。やむをえないよ」と慰められたり、「今年は全国的にレベルが高いのだよ。その中の優勝は立派なものだ」褒められたりしました。

ひそかに私淑しているある方に、大会前にお会いしたとき、「指導者ともなれば、どうしても欲が深くなる。それを抑えるにはこういう考え方もある」とご教示をうけたのですが、その「欲の深さ」が今大会で顕現してしまったようです。

ともあれ、最終試合まで勝ち抜けたのは幸運という一語に尽きるので、４月からは“実力を試合で十二分に発揮する”を主要な目標にし、選手たち以上に、何よりも自らを鍛え直して、インターハイ東京都予選を勝ち抜こうと考えています。

都予選と全国大会との間に大きな断絶があるのではなく、予選と全国大会は一つながりであり、一試合一試合、戦うたびに少しずつ成長する、経験が力量を高めてゆく、その高まった力量をどのようにどれだけ次の試合で表現できるかが、アスリートにとって実践である（すなわち実戦である）、ということを選手たちに伝えようと思っております。

最後になりましたが、大会運営については、さすが日本のハンドボールの大きな柱石である愛知だなあという思いを深くしました。当事者の私たちだけではなく、応援に来た人たちが口を揃えて、同じ感想でした。「私たちは愛知に教えを乞いに来たようだね。」

【写真提供：スポーツイベント社】

戦評

男子

■準決勝

興南　35（17－15，18－12）27　横浜創学館

興南のスローオフで試合開始。興南は、7番下地のカットインシュートで先制すると高い個人技術を生かした攻撃で着実に得点を重ねる。一方、横浜創学館は機動力を生かした興南の3-2-1DFを崩せず、苦しむも、スピードに乗った速攻で得点をあげ食らいつく。前半中盤、興南に退場者が出る。横浜創学館はこの好機を生かし、4連続得点で同点に追いつく。その後、両チームの持ち味を生かした攻防を繰り広げ、17対15で前半を終えた。

後半開始直後、興南は3連続得点で20対15とリードを広げた。14分に興南に退場者が出るものの、横浜創学館はなかなか点差を詰めることができない。終始、安定した攻撃力と積極的なディフェンスを見せた興南が35対27と逃げ切り、決勝へと駒を進めた。

春日丘　31（18－13，13－14）27　法政大第二

地元愛知の大声援を受けた春日丘が試合開始早々、4連続得点で幸先の良いスタートを切る。追う形となった法政大第二も13番門間のサイドシュートや11番宮崎のカットインで春日丘の高いディフェンスを切り崩す。一進一退の攻防が続くが要所で5番今井のポストシュートで確実に得点を重ねた春日丘が18対13で前半を折り返した。

後半、サイドシュートから打開したい法政大第二だが、1番谷の好セーブに阻まれ、この試合最大の8点差がつく。しかし、10分過ぎ、法政大第二は相手のミスから5連取し、勢いを取り戻す。一気に追いつきたい法政大第二であったが、春日丘は粘り強いディフェンスで耐え、31対27で勝利し、初の決勝進出を果たした。

■決勝

興南　31（14－11，17－14）25　春日丘

昨夏の覇者興南と地元愛知の春日丘の対戦。最初に流れをつかんだのは春日丘。厳しいDFで相手のミスを誘い、速攻などで4連続得点をあげ前半7分3－6となったところで、興南がタイムアウトを請求。その後、興南はリズムを取り戻し、7番下地を中心にスピードを生かした攻撃で連続得点をし、14分9対7と逆転。春日丘も2番佐野、5番今井を中心に得点を挙げるも連取ができず14対11と興南3点リードで前半終了。

後半開始直後、興南は4連続得点でさらにリードを広げる。一方の春日丘は興南の積極的な3-2-1DFを崩すことができず苦しい時間が続く。その間にも興南は高い個人技術を生かした攻撃で着実に得点をあげ、点差を広げる。春日丘も速攻などで最後まで食らいつくも追いつけず、31対25で興南が勝利をおさめた。

女子

■準決勝

愛知商業　26（10－10，16－7）17　四天王寺

愛知商業のスローオフで試合開始。前半、4番村松、13番吉田を中心にサイドへ展開する愛知商業に対し、四天王寺は14番前田、18番土居らの勢いある攻撃を見せる。途中足が止まり退場者の出た愛知商業だったが、四天王寺はこの好機を生かせず、10対10で前半終了。

後半最初に流れをつかんだのは愛知商業。GK12番中島の好セーブから3番田中らで7連続得点。9分間ノーゴールの四天王寺はたまらずタイムアウトを請求。落ち着きを取り戻した四天王寺は、6番山口、10番山根で2連続得点。流れを取り戻すかと思われたが、愛知商業のパスワークを止めきれず失点を重ねる。また、攻撃もGK12番中島を中心としたDFを崩しきれず、26対17で試合終了。愛知商業は全員でバランスよく得点を重ね逃げ切り、開催地で初の決勝への切符を手に入れた。

佼成学園女子　27（17-5，10-13）18　氷見

氷見のスローオフで試合開始。佼成は試合開始直後から3連続得点をし流れをつかむ。一方氷見は前日の熱戦の疲れからか佼成の堅いディフェンスを崩すことができない。その間も佼成は着実に得点をあげ17対5と大きくリードを広げ前半終了。

後半開始とともに2連続得点をあげた氷見は12番徳田の好セーブやチームの特色であるディフェンスからの速攻がきまりはじめ徐々にリズムをとり戻していく。しかし、前半に広げられたリードが大きく27対18で佼成が2年連続で決勝へと駒を進めた。

■決勝

佼成学園女子　23（13－9，10－11）20　愛知商業

決勝独特の緊張感から両チーム、ミスを連発。また、佼成学園16番大沢、愛知商業12番中島、両GKの好セーブにより、5分間ノーゴール。たまらず佼成学園がタイムを請求。落ち着きを取り戻した佼成学園2番斗米がポストシュートを決め先制。対する愛知商業も6番野村が決め、すぐさま同点に追いつく。ここから一進一退の競り合いが続いたが、16分に佼成学園3番初見のゴールを皮切りに、3連取。この試合初の3点リードをつけられた愛知商業が20分にタイムを請求。しかし佼成学園エース4番河原畑に当たりが出始め、点差をつめられない。愛知商業は28分から9番三宅を投入した7人攻撃で、7番木戸がサイドシュートを決め、13対9で前半を折り返す。

後半、佼成学園の1対1の強さを生かした積極的なDFに対し、愛知商業は4番村松を中心にチームプレーで挑む。10分過ぎまで粘りを見せた愛知商業だが、足が止まり始め、この試合最大の7点リードを奪われる。これで勝負は決まったかに思われたが、20分に8番宮崎らで3連取し流れを引き寄せる。しかし、佼成学園は慌てない。センター2番斗米を中心にポストを絡めて幅広い展開で要所を押さえる。反撃を見せる愛知商業を振り切り23対20で大会連覇を決める。

4点共【写真提供：スポーツイベント社】

平成 26 年 4 月 1 日

各都道府県協会理事長　殿
各ブロック協会理事長　殿
各連盟理事長　殿
関係各位　殿

（公財）日本ハンドボール協会
競技本部長　江成　元伸

競技運営に関する確認（平成 26 年 4 月 1 日実施）

平成 26 年度に向け、各種の協議を重ねました。下記の事項について、周知徹底をよろしくお願いします。

記

1　テクニカルデレゲート（TD）の任務、平成 26 年度版を発行した。
　この任務は、本協会主催、共催大会、加盟団体の主催、共催大会の全試合に適用する。ただし、大会により 2 名のテクニカルデレゲート（以下、TD）を配置することができない場合は、主催者の役員を 1 名配置し、記録席のもう一方の係員が TD の任務を遂行する。

2　TD の服装は、TD として統一したスポーツウェアーを着用することが望ましい。従来は、ブレザー、ネクタイ着用を基本としていたが、IHF、AHF の方式にならうこととした。

3　審判員・TD の間で通信機器の使用を認める。ただし TD は、競技規則に反する明らかな判定上のミスの指摘や、競技運営に必要な情報の提供を除き、審判員に事実判定の指摘をすることはできない。

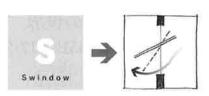
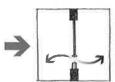
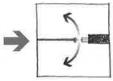
4　本協会競技委員長、本協会審判長は競技運営を円滑に推進するため、また、審判員育成のため、記録席または別の場所から通信機器を用い、審判員に各種のアドバイスをすることができる。

5　ユニホーム、短パンツ、ソックスに表記されるメーカーロゴの大きさは、IHF が規定している 20 ㎠を超えてはならない。

6　試合中、交代地域にスペースがあればウォーミングアップをすることができる。ウォーミングアップを中断するようであれば、直ちに座るよう指示をする。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出すようなとき、試合の判定に反応して大きな声もしくはジェスチャーをしたときは、直ちに座るよう指示をする。状況によってはスポーツマンシップに反する行為として、審判員を呼び、罰則を適用させる。

7　交代地域では、チーム役員、選手のあらゆる通信機器の使用を禁止する。試合の記録媒体として、i-Pad のような情報端末も通信機能を持つ機種が多いことから、使用を禁止する。通信機器ではないが、メガホンの使用を禁止する。

8　日本協会から中学校、中学生に関することのお知らせとして文書を発信した。特に、JOC ジュニアオリンピックカップ大会（本大会）の使用球については周知方をお願いする。
　使用球
　　男子　日本協会検定球　3 号球を使用する（継続）
　　女子　日本協会検定球　2 号球を使用する（継続）
　予選会については、開催時期に幅があることから、実態に合わせて使用球を決定してほしい。男子は 3 号球を使用することが望ましい。

以上

国際レフェリー：池渕・檜﨑ペアに直撃インタビュー

目標はオリンピック出場

左から、池渕智一さん、檜﨑潔さん

日本ハンドボールリーグ・プレーオフの初日となる３月８日（土）、大会期間中の多忙な中、IHF公認国際レフェリーの池渕智一さん、檜﨑潔さんにお話を伺う機会を得ました。

IHF 公認の国際レフェリーを概観すると、IHF「REFEREE LIST 2013/2014」によれば、現在日本には、他に島尻真理子・太田智子ペア、本田昭太・田渕元雄ペアとあわせて３ペアですが、全体では 95 ペア（内、女子 14 ペア）となっています。大陸別に観れば、欧州 58 ペア（内、女子ペア９）、アフリカ 16 ペア（内、女子ペア３）、アジア 15 ペア（内、女子ペア２）、アメリカ６ペアであり、更に、アジアを国別に詳しく観ると、日本・バーレーン、中国が夫々３ペア（日本・中国は女子１ペア含む）、イラン２ペア、韓国・クウェート・カタール・UAE が各１ペアであります。IHF 主催大会のレフェリーは、大会毎に 16 ペアがノミネートされ大会に参加することになり、アジアからも毎回複数のペアが選ばれています。池渕・檜﨑ペアの IHF 主催大会での吹笛実績は、2006 年女子世界ユース選手権（カナダ）、2007 年男子世界ユース選手権（バーレーン）、2008 年女子世界ジュニア選手権（マケドニア）、2009 年男子世界ジュニア選手権（エジプト）、2010 年ユースオリンピックゲームス（シンガポール）、2011 年女子世界選手権（ブラジル）、2013 年男子世界ジュニア選手権（ボスニア・ヘルツゴビナ）と数多くの国際経験を積み重ねています。又、アジア連盟主催の 2014 年１月開催の男子アジア選手権（バーレーン）に於いても、招聘８ペアの一員として参加しており、正に現在日本のトップレフェリーです。

○審判活動の切っ掛けはどのようなことからでしたか

【池渕】現在は岐阜に居住していますが、元々岡山県出身でして、県で優勝常連校の総社西中学校でハンドボールを始めました。岡山インターハイが高校３年生の時期に開催する黄金の世代で、１年生の時から数多くの試合をするように指導を受けました。１年生同士の試合ではルールも十分理解していない中で、審判として笛を咥えての試合もした覚えがあります。この時代に審判に強く興味を引かれ、他の先輩方の審判の動きなどにも関心を持つようになり、２、３年生の紅白試合では、上下関係が強いなかに有りながら下級生の審判が毅然として吹笛していた姿に憧れもあったのを記憶しています。選手として試合にも出場していましたが、合間には、審判もするようになっており、その後総社高校でのハンドボール生活を経て、岐阜教育大学（現岐阜聖徳学園大学）入学後に公認資格を取り、３年生のときにＢ級を取得しました。

【檜﨑】広島県での高校のハンドボール生活が終わるころに指導者になりたいと思っていましたが、漠然とはしていたがレフェリーも良いなと感ずるようになっていました。高校生活最後の国体も終了し大学に進学の折には、選手としてもプレーを継続するが、レフェリーとしても活動していこうと決めていました。中京大学入学後に審判の公認資格を取得し始め、池渕さんとは１年後輩になりますが、同じ時期に日本協会主催のレフェリーコースを受講し２年生の時にはＢ級を取得しました。

○お二人がペアを組みだした切っ掛けは

【池渕】二人とも、岡山県の高校（総社高校と総社南高校）でプレーをしていましたので面識はありましたが、お互い大学進学後に同じ東海学生ハンドボール連盟で顔を合わせるようになり、そこで当時中京大学ハンドボール部の小山哲央先生と当時東海学生連盟理事長の飼沼敏雄先生から、引き合わせたい人が居ると言われたのが切っ掛けとなりました。

【檜﨑】そうでしたね。小山先生から選手として、更には審判活動の指導も受けていましたので、池渕さんとの引き合わせが無ければ、今日のペアは無かったと思います。縁があったとしか言い様がありません。

○日本国内の吹笛基準と、アジア大会、世界大会での違いはありますか

【池渕】何が起こるのか分からないのが、アジア大会含めた国際大会での試合です。国内の試合では、選手たちは礼儀も正しく怪我をしていないにも拘らず怪我の振りなどして試合を止めることはありませんが、海外ではレフェリーを惑わすプレー多く見受けられ、コンセントレーションを高めていないと適格なフェリングが出来ないことが多くあります。

【檜﨑】国内よりも一層選手の体格も大きくなり、コンタクトが強くなる傾向がありますが、ファウルの判定基準が変わることはありません。が、ポストの守りやサイドシュートでの接触プレーなどは、日本では想定外の考えられないプレーも出てきますので、本当に何が起こるか分からないことが多々あります。それだけに、こちらもよりプレーに集中した判定が求められるようになります。

○国際レフェリーを育成するための環境整備の課題は

【池渕】一番大変なのは、職場の理解をどのように得ていくのかではないでしょうか。私は小学校の教諭ですが、学校は勿論、保護者や児童の理解を得ることが本当に大変です。幸い、自分自身は、現在多くの方に理解、応援を頂いて活動ができており、

感謝しております。国際大会への参加は、日本の代表レフェリーとして参加するものであり、国を代表している強い意識を持って臨んでいます。できれば、2020年東京オリンピック開催も決まり、選手だけでなく、レフェリーにも日本代表としての温かい更なる支援を望みたいです。

【檜﨑】IHFの大会では一大会3週間の日程、国内大会でも1週間の日程を取ることになりますので、職場の理解と支援は必須となります。私は大学の職員ですが、周りの皆さんには気持ち良く送り出して戴いており感謝しています。私自身、日本を代表してレフェリーとして参加する自覚は持っていますが、レフェリーのレベル向上やステイタスのアップのためには、より一層のレフェリー活動全般の環境醸成を期待したいと思います。

○世界のレフェリーの潮流は

【池渕】レフェリーもシャトルランテストなどフィジカル面での強化・補強が鮮明となってきています。少し昔には走れないレフェリーもまま見受けられましたが、ルールテストなどと合わせ知識面を含めた、体力･知力の向上は顕著となって来ています。

【檜﨑】レフェリーの判定基準は明確でありますが、取り分け、段階罰の適用には大会前、大会期間中を含め綿密な指導と確認がされ､試合後のミーティングにおいても、段階罰適用、ダイレクト2分間退場、失格の判定などにVTRを見ながらの細かい指導が入るのが現状です。

○1月のアジア選手権に参加されましたが、所謂、「中東の笛」の実態は感じましたか

【池渕】参加のレフェリーも試合の都度に評価されており、そのような事象は見受けられませんでした。

【檜﨑】はい、「中東の笛」と言われる吹笛は無かったと断言できると思います。

○IHFの審判のプロ化の流れは如何でしょうか

【池渕】サッカーを見れば分かるように、先ずは選手のプロ化が先行しその後にレフェリーのプロ化があるような気がします。

【檜﨑】欧州のレフェリー始め、プロではなく通常の職業に付いている方が大半であるが、欧州のレフェリー活動環境は、日本では考えられないほど進んでおり、平日と休日を使って欧州各国・各地で大会を駆け巡り、経験を踏むに十分な環境が用意されています｡大変羨ましいことではあります。近年、中東諸国もスポーツに対して力を入れている国が多く、仕事を持ちながらでも比較的容易に長期間の大会に参加できているようです。

○後輩となる若手の審判に期待することは

【池渕】少し厳しい言葉になるかもしれませんが、「覚悟」をもって取り組んで欲しいです。自分の信念は曲げずに、どれだけ責任感を持てるか、一つの試合にレフェリーとしてしっかり臨んで欲しいです。重荷に感じることはありませんが、レフェリーとして大好きなハンドボールと一番近くで関われる喜びを味わって欲しいと思います。

【檜﨑】レフェリーを始めたころには､色々な方からの助言だけでなく時にはクレーム紛いもあるでしょうが、屈することなく次のステージに挑戦をすることを期待しています。そのためにも、周りで支援する人や、育成を手助けする人のサポートは大切です。今日の試合が終わって、レフェリーは誰だったかなと言われるように、レフェリーが目立ちすぎることなく、選手が一番のゲーム展開が出来ればこれは素晴らしい事です｡ハンドボールを一層好きになって、レフェリーの役割を一層盛り上げてください。

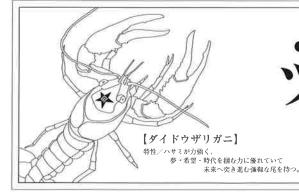
○お二人の今後の活動の目標は

【池渕】オリンピックでの吹笛が目標です。2020年東京オリンピックが決まり、レフェリーも日本からエントリーされるとの観測もありますが、そうではなく、自分達の力で選ばれたいと考えています。そのためにも、北京、ロンドンでは果たせなかったオリンピック出場をリオで達成すべく挑戦していきます。

【檜﨑】年齢的にも40歳に近い現状では、2020年と言うよりも、先ずは、直近のリオ・オリンピックに照準を絞り取り組んで行きたいです。IHFの評価も大事ではありますが、自分なりにベストを尽くして努力を重ねたいと思います。そして、その結果として、オリンピックへの出場が果たせれば最高です。

日本のトップレフェリーとして、日々の努力と人生をも掛けた国際レフェリー活動に改めて敬服すると共に、今後の益々のご活躍を祈念せずにはおられません。是が非でも、2016年のリオ・オリンピックへの出場を果せるよう、日本ハンドボール界を挙げてのサポートの必要性を痛感しました。世界を目指すハンドボールの更なるレベルアップには選手の育成・強化は勿論ですが、これと機を合わせた国際レフェリーの育成は、車に例えれば両輪であることに間違いありません。今回登場戴いた池渕・檜﨑ペアお二人の歩んできた過程を引き継ぎ、世界レベルで活躍できる国際レフェリーが数多く輩出する事を期待しています。

プレーオフ男子準決勝前の選手入場から

プレーオフ男子決勝のジャッジから

【報告】日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修事業

日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修員　高橋 豊樹

2013年8月から日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修事業の研修員として、コーチのキャリアをデンマークで積ませて頂いております。この場をお借りして現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。

日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修事業

1979年からスタートした日本オリンピック委員会（JOC）の事業の一つに「スポーツ指導者海外研修事業」があります。これは、新進気鋭の若手指導者をスポーツ指導者海外研修員として海外に派遣し、その専門とする競技水準の向上に関する具体的な方法等について研修させるとともに、海外の選手強化対策、指導者養成の実態等について調査・研究に当たらせ、将来我が国のスポーツ界を担う指導者として育成することを目的として立ち上げられた事業です。JOCに所属する35競技団体から派遣されており、日本ハンドボール協会からは過去に9名派遣されていて、私が10人目の研修員となります。世界有数のハンドボール先進国であるデンマークに、コーチとして挑戦できることを幸せに感じています。他国からも若手指導者が集まるこの環境で、彼らと共に成長しながら、絶えず上を目指して取り組んで行くことが大切なことだと思います。世界のハンドボールがどこに向かっているのかを肌で感じながら、日本のハンドボールとしてどういう方向性で進んで行くべきなのかを考えていきたいです。スポーツ振興助成をはじめ多くの方々の願いや夢、支えによってこの挑戦が成り立っていることを感じながら、全力を尽くすことで報いることができればと思います。

ハンドボールの国　デンマーク

私は今、ハンドボール発祥国であるデンマークで研修を積んでいます。デンマーク男子は2012年欧州選手権優勝、2011・2013年世界選手権準優勝、女子においても過去にオリンピック優勝、2013年世界選手権3位と男女共に常に世界のトップレベルでハンドボールをリードする国です。育成レベルでの活躍もめざましく、2011年ワールドジュニア優勝、2011・2013年ワールドユース優勝と輝かしい成績を残しています。

また、2013年12月にセルビアで開催された女子の世界選手権は記憶に新しいと思います。ファイナル4に駒を進めた4チームの内、3チームのヘッドコーチがデンマーク出身でした。デンマークは指導者の育成に関しても定評のある国です。

留学生活

現在、Idræts højskolen Århus（イデーツ・ホイスコーレ・オーフス）のAarhus Handball Academy（オーフスハンドボールアカデミー）を本拠地として、SK Aarhus（デンマークリーグ女子一部）のトップチーム、U18（リーガ5位）、U16チームに帯同して研修を積んでいます。また、今年2月からはデンマーク代表女子のアナリスト、Rudgaard氏のチームであるSkanderborg Håndbold U18女子（リーガ1位）にも関わるようになり、とても充実した日々を送っています。振り返ってみると、初めの一ヶ月は、まずデンマークでどういう練習が行われていて、コーチ陣がどういういったタイミングで何を言っているのか、そしてデンマーク人がどういう雰囲気で練習を行っているのかをじっくり観察してくれということで、オブザーバーとして毎日練習に通っていました。そして意見や感想を求められたり、日本ではどのようなことやっているのか聞かれることもありました。二ヶ月が過ぎた頃から、U16、U18、トップチームの各チームで週に1度ウォーミングアップやフットワーク、パスワークの指導を任せられるようになりました。チームによって立場は変化しますが、現在はヘッドコーチの90分の練習をアシスタントしながら日々取り組んでいます。まだまだ反省点が多いですが、毎回の練習で自分の伝えたいことをはっきりとさせて、如何にして彼女達の頭に残すのかをテーマにして練習に臨んでいます。

Idræts højskolen Århus

デンマーク第二都市オーフスの市内からバスで20分の場所にある「Idræts højskolen Århus（イデーツ・ホイスコーレ・オーフス）」はスポーツを基本として、人間の創造性や自己の能力の発達を目指した、成人教育機関の一種で、デンマークの伝統的な寄宿制の学校です。デンマークではフォルケホイスコーレと呼ばれています。フォルケホイスコーレはニコライ・フレデリク・セヴェリン・グルントヴィが理念的なものを提案し始まったとされており、基本的に18歳以上ならば誰でも入学できます。共に食事や生活をしながら様々な体験をして学び、人間として豊かに成長していこうという理念の学校です。デンマーク人の多くは、高校を卒業し、ホイスコーレに通い、ここで様々な体験を半年ないしは1年程積んでから、大学進学や就職をするようです。デンマークに約70校存在し、スポーツに特化した学校は約4校あり、その一つがIdræts højskolen Århusです。Idræts højskolen Århusの中にハンドボール、フットボール、バレーボール、バスケットボール、ダンスなど、それぞれのアカデミー（コース）があり、私はハンドボールアカデミーで午前中の多くの時間を過ごしています。

Aarhus Handball Academy

Aarhus Handball Academyでは、18歳から20歳前後の若い男女のプレーヤーが、前出のIdræts højskolen Århusでの生活を送りながら、トップコーチの指導、指定された授業（フィジカルトレーニングや、メンタルトレーニング）などを受講し、エリートプレーヤーとしての生活を送ることが出来ます。ハンドボールアカデミーでのクラスは非常に柔軟に設計されているので、自分のトレーニングに合わせてスケジュールを組むことが出来ます。選手は同時にクラブチームでプレーする機会を持つことができ、それぞれのレベルに合わせてチームを選択することが出来ます。

選手のレベルは様々ですが、デンマークスーパーリーガに進路を進めた選手も数多くいると聞いています。コーチを目指す者は、「Danish Team Coach Class」というコースに入ることで、デンマークのコーチとしての理念やコーチ学を学ぶことが出来ます。

SKOVBAKKEN / SK AARHUS

Skovbakken はデンマークオーフスに位置するスポーツクラブで、地域総合型クラブです。フットボール、ハンドボール、バスケットボール、テニス、バレーボールなど様々なスポーツのチームを運営しています。Skovbakken は Idræts højskolen Århus と密接な関係にあり、体育館などの施設はお互いが共有して使用しています。また、地域の学校との連携も密接で、常にどこかの団体が施設を使用しているようなスケジュールが組まれています。SKOVBAKKEN HÅNDBOLD は U8、U10、U12、U14、U16、U18、そして、シニアチームを所有しています。それぞれに男女のチームが存在し、シニアチームは男女で 6 チームあります。すべて合わせると 20 チーム程あることになります。私が現在研修を行っている SK Aarhus は SKOVBAKKEN HÅNDBOLD などのオーフス周辺の地域で運営している地域総合型のローカルクラブからセレクションをすることで集められた、オーフスの女性エリートチームです。U16、U18、トップチームで構成されています。

デンマークハンドボール協会の育成哲学

「デンマークがナショナルチームを通じて世界のトップであり続ける必要がある」

2013 ワールドユース（U19）代表監督 Claus Hansen 氏の講習会はこの言葉で始まりました。デンマークハンドボール協会（DHF）では、ナショナル A 代表チームがデンマークハンドボール全体の駆動源のようなものであり、最終的に、ナショナル A 代表チームが結果を出すことが、新たなハンドボール選手はもちろん、多くのファンで試合会場を埋めることに繋がり、ハンドボールが国技としての地位を維持できるような、ポジティブなサイクルを生み出すことになると考えています。

そのために、DHF としての、タレント育成及び選抜における明確な前提は、「ナショナル A 代表チームの選手を育成し選抜すること」であり、タレント育成に関しての全ての決定は、この前提に基づいて行われなければならないとされています。数年後の世界のハンドボールが必要とするタイプの選手を輩出し続けていくために長期的なスパンでタレントの育成を行っています。もちろんこのような長期戦略の結果、DHF は、ユースの世界選手権でもタイトルを獲得したいと考えていますが、あくまでも、A 代表の選手を育成することが大前提であって、その部分を犠牲にしてはいけないとも考えています。

徹底的な検証

デンマークが世界のトップであり続ける必要がある。デンマークハンドボール協会の明確な目標の下、定期的に検証の機会が設けられています。この検証がとても大切なことで、育成のすべてはここから始まります。

デンマークハンドボール協会は機能しているのか？

今現在、デンマークナショナル A 代表チームは世界のどこに位置しているのか？

どのような能力やスキル、タイプの選手を所有しているのか、足りていないのか？

どのような能力やスキル、タイプの選手をこれから失っていくか？

世界のハンドボールのトレンドが進む方向は？（世界のクラブのハンドボールや、ジュニア・ユースの大会などの傾向から予測されるもの）

といったことを、現状から徹底的に検証し、明確に示した上で、タレント育成では何をしていくのか、どのように改善していくのかということを計画し実行に移しています。

当たり前のことを当たり前に実行に移していくことが出来るのがデンマークハンドボール協会の強みであり、学ぶべきことが多いのではないかと思っています。

研修は残り一年半となりました。今後日本のハンドボールが何をなすべきか。どういう方針をどう進めていくか、これから日本がやらねばならないことを、勉強すべきことを私の立場の中で考えていかなければならないと思っています。この研修が多くの方々の願いや夢、支えによって成り立っていることを感じながら、全力を尽くすことで皆様に報いることが出来ればと思っています。

~地方行脚で絆を深めよう~

企画・広報委員
早川　文司

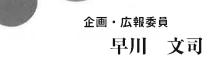
ハンドボール界はもとより、各スポーツ団体は新しいシーズンを迎えた。リオデジャネイロオリンピックへ向けて本格的な取り組みに走り出すことはもちろん、各カテゴリーのレベルアップにいっそうの努力がなされることを期待したい。国際大会でも国内外での開催を問わず、好結果を残すことが全体の底上げにつながるし、自信にもなることは間違いない。

ところで日本協会では毎年度、事業計画がつくられるが、その中に「広報に関する事業」がある。今年度も注目度アップ、バリューアップにつながる情報発信を図るーなどがうたわれている。

また、マスコミとの交流拡大や積極的情報発信、定期懇談会の実施などもある。

どの項目も外せないのはもちろんだが、いっそうのスピード化、積極さが求められるのが現実であろう。各競技団体ともあの手この手でメディアを“利用する”ことに努めている。

昨年は2020年東京オリンピック招致が決まったが、ハンドボール界には、それを後押しするかのように2019年女子世界選手権の日本開催も決まった。オリンピックの前年という時期的にはベスト開催である。

バリューアップ、注目度アップにはもってこいである。当然ながらチーム強化は当たり前だが、全国のファン開拓には地方の“メディア開拓”も欠かせない。関東、関西圏でのメディア対応は大切ではある。しかし、日本リーグ加盟チーム本拠地での対応もまた重要な要素である。

日本リーグを報じる新聞、テレビなどを見ても、熊本、石川、広島など全国紙などと比較できないくらい地元チームに大声援を送るべく、大きなスペースを割き、テレビでも取り上げている。

こうした現状を考えても、そうした地方のパワーをもっともっと上げていくことが必要ではないだろうか。

そこで一つの提案をしたい。

日本協会首脳が「地方行脚」に出かけてはどうだろうか。今シーズンも全国レベルの大会が各地で予定されている。そこでメディアを集め、日ごろ彼らが感じている意見、要望を聞くなどの機会をぜひとも作りたいものである。

協会首脳との接触が少ない地方のハンディを取り払うことも、親近感を持たれる一つの策だろう。

距離感を縮めることこそが、ハンドボールをさらに身近に感じ、新たなファン、住民との絆を深められるはずだ。せめて1年に2、3回くらいは各地に足を運び、地方の声を吸いあげてもらいたいと節に願う。

平成25年度 医事委員会報告

文責：医事委員長　佐久間 克彦

平成26年3月15日（土）18：00～20：00、味の素ナショナルトレーニングセンター研修室1にて16名参加にて委員会を行いましたので報告いたします。

1）2019年女子世界選手権／2020年東京オリンピックに向けて医事委員会活動に望まれること（津川昭 強化部長／常務理事）：ターゲット世代の選手に傷害予防の観点から医事委員会としてケアができる体制作りが期待される。

2）2019年女子世界選手権／2020年東京オリンピックに向けてAHF/IHF医事委員会活動見込み（坂本静男 AHF医事委員長／IHF医事委員）：両大会にて可能な限り多くのドーピング検査を行いたい。それに対して医事委員会としてはアンチ・ドーピング特別委員会と協力して選手に対するアンチ・ドーピング活動を積極的に行うことが必要と考える。2019年女子世界選手権（熊本）と同時期開催で「ハンドボールとスポーツ医・科学」の学術大会を開催する予定である。

3）第1回JOCアンチ・ドーピング委員会の報告（藤森徹 常務理事）：WADA/JADAは居場所情報を厳格に行う方針である。血液ドーピングも積極的に取り入れる方針である。

4）〇女子ユースアジア選手権における尿比重と疲労度の関係（貝沼圭吾 医事委員）第5回アジア女子ユース選手権帯同時に行われた尿検査を用いたコンディショニングについて詳細な報告がなされた。結論として尿検査によるコンディションチェックは有用であると判断されるため、今後精度を高め各カテゴリーの全日本の合宿・遠征にてその検証を行う予定となった。〇アンチ・ドーピングの啓発の効果（貝沼圭吾 医事委員）：2012年度日本ハンドボール協会内から2件のドーピング防止規程違反が発覚して処分対象となった。このことを踏まえて積極的に行ったアンチ・ドーピング活動内容、さらにその結果報告を、ハンドボール機関誌およびスポーツイベント・ハンドボール（2013年の1年間連載）日本臨床スポーツ医学会（2013年）で随時行った。さらに、日本協会ホームページ内に「日本協会ドーピング防止啓発ページ」を作成してハンドボーラーのドーピングに関する悩みを解決する活動を行っていることも報告された。

5）IOCスポーツドクター研修の進捗状況（井本光次郎 医事委員）：2013年度より開始され世界で約50名、日本で10名弱の先生が取得を目指して厳しい研修を行っている。受験資格から、経費（年間約40万円で2年間、さらに海外の拠点スポーツセンターでの研修が必要）、e-learning、カリキュラム等についての報告。

6）栄養サポートについて（安田女子大学家政学部管理栄養学科助教 永澤貴昭先生：平成26年度より医事委員）：中学、高校、大学、社会人、全日本等に各年代およびカテゴリーに応じての栄養サポート体制の今後の取り組みに対する計画が示された。今後は、強化部長と討議の上、具体的な活動計画を立てる事となる。

7）トレーナー部会活動報告（高野内俊也 トレーナー部会長）：2012年度より活動開始となったトレーナー部会の現在の会員数は72名。平成26年6月21/22日、トレーナー部会のワークショップを開催予定。その際、医事委員会のドクターも協力して教育活動を行うことで委員の了承を得る。

8）日本ハンドボール学会の案内（北岡克彦 医事委員）：2013年創設の学会の発起人である北岡先生より、学会の概要についての説明を受ける。来年より医事委員会のメンバーも積極的に参加することで全員の同意を得る。

9）平成26年度国内・国際大会日程（案）／医事委員会の事務手伝いの急募／「がんばれハンドボール20万人会」参加へのお願い（原田悟 日本ハンドボール協会事務局）

ヨーロッパのハンドボールLIFE

ドイツに来て思ったこと

米倉章弘

初めまして、ドイツで現在リハビリをしながら所属チームを探している米倉です。怪我の事情などは途中でお話していくので、まずはドイツに行ったきっかけからお話致します。

海外でのプレーを意識し出したのは高校生の時です。当時、雑誌やテレビでも海外の情報が発進されだして、いつか自分も行ってみたい、高校を卒業したらすぐにでも行きたいと思いました。しかし、当時海外でプレーする日本人は少なく、現実離れした道というイメージがあり、そんな状況で高校の監督や家族に、「大学に行かずに海外に行きたい。」とは言えませんでした。しかし大学１年生の時、知り合いがドイツの三部リーグに行くという話を聞き、その方にお願いしてチームに許可を取り、夏休みの間だけ練習に参加させて頂く機会を得ました。その時の経験を踏まえ、また、大学時代のチームメイトの大房勝則（前川崎市立西中原中）とも頻繁にお互いの海外への夢を語り合ったりする間に、徐々に自分の中で決心が固まっていきました。彼は指導者としてトップを取る、僕は選手として上を目指すという約束をして、僕はドイツへ旅立ちました。彼は既に春の全国大会で優勝をして約束を果たしました。僕も結果を出し堂々と胸を張って日本に帰られるよう、日々のリハビリに励んでいます。

１年目は今まで日本人が数人所属していたデーリッチの二軍（四部）でプレーしました。そこでは、監督がそれまで所属していた日本人選手を通し、日本人の長所や癖を良く把握していたこともあり、割りと早くチームに馴染めたと思います。

２年目は稲本圭亮（ZHC）と同じくデーリッチの監督に誘われ、二人でゲルリッツ（五部）に移籍しました。この時に四部リーグが新しく設立され、自動的に僕らは五部リーグとなりました。ここではドイツ生活における大事なことを勉強させられました。それはドイツ語が出来ないと何をするにも影響が出るということです。今では出来る様な事でも、当時は全く出来ませんでした。２年目の10月位にチームが自分に合っていない様な気がした為、再度移籍を考えました。しかしその際、マネージャーに色々な手を使い妨害されました。こういう事もドイツに来なければ経験出来ない事だし、今となっては良い経験として周りには話しますが、当時はそれどころではありませんでした。もっとドイツ語が出来たら、と歯がゆい思いをしたのを覚えています。

そうして渡独して３年目、三チーム目となる移籍先を探していたのですが見つからず気づけば８月でした。どこのチームも７月にはシーズンの補強は終わっていますが、僕は８月になってもまだ所属チームが決まらぬままでした。同じリーグのチームに手当たり次第メール送って返事を待ち、返事が来たチームにトライアウトをしに行っていました。そこで一つ興味を持ってくれたチームが練習試合に来てほしいと言ってくれ、その時の試合相手だったのが僕がこの年所属することになるツィーゲルハイム（四部）でした。ツィーゲルハイムは、一つ上のリーグとはいえ経済的にあまり余裕のないチームだった為、来シーズンの移籍の足踏み程度に考えていました。降格争いをしてたので、自分の仕事は降格を阻止する事で、それが達成できたら移籍をしようと心に思いながら１年間プレーしました。

４年目はフレンスブルグ。三部から降格してきたタイミングで僕の所属が決まりました。降格したこともあって主力選手は殆んど抜けましたが、以前は二部にいた若い選手、三部の上位にいた選手など、若手で良い選手を集めてやはり経済的に厳しい環境の中、昇格を目指して皆頑張っていました。

怪我をしたのは、４年目、フレンスブルグでのシーズン終了直前の試合で、相手との激しい接触で肩がボールの上に乗ってしまい右肩脱臼烈離骨折、ハンドボール選手としては致命的な大怪我をしてしまいました。最初に診察を受けた病院では手術が必要か分からないと言われ総合病院に行きましたが、そこでも分からないと言われました。自分でもどうしていいか分からず悩んだ結果手術に踏み切りました。それまでに移籍の話を進めていたチームとの話はもちろん無くなりました。そこのマネージャーには来シーズン機会があればと言われましたが、ドイツでの移籍はプレーはもちろん、タイミングが非常に重要で、同ポジションに複数も必要ないので、よほど上手くない限りは契約が残ってる選手を使います。今もそのチームとは定期的にコンタクトを取っており、肩が治り次第トライアウトに行く予定ですが、どうなるかは分かりません。最初は以前所属していたチームが帰ってこいと言ってくれ、７月に手術をして１月からの後半戦に出ようとしていましたが、リハビリを焦り 11 月に手術した箇所を傷めてしまい、そこで我に返り無茶していたと反省しました。今はドイツでリハビリ施設に通いながら友人のチームの練習に参加してトライアウトに備えています。

ドイツに来て思ったことですが、西洋人と日本人の違いとしてよく体格差を指摘されてます。僕はこれがDNAだけの違いとは思えません。日々の練習、生活環境など様々な事が影響していると思います。僕が見た事のあるドイツのチームの高校生は週一回サーキットトレーニングをやっており、別

日に筋トレも行うそうです。このサーキットトレーニングはハンドボールに必要な動きを想定して行われます。ドイツでは練習前にその練習の意図を話してから行いますが、これは日本ではあまり見られない光景だと思います。そして驚いたのが、選手がひとつの練習を行っている間に監督は次の練習の準備をするなど、選手が練習に集中出来るよう監督自らが率先して練習の効率化を図っており、僕はこれこそチームなのだと感じました。何が正しいかは僕もまだまだ模索中ですが、日本の指導者の方々には今一度視点を変えてハンドボールを見て頂けたらと思います。６年後にはオリンピックも決まったということで是非日本には良い結果を、そして海外進出のチャンスを得て貰いたいと思います。ここで日本のハンドボールが認められれば今以上に上のリーグでプレー出来る選手も多く出てくると思います。

僕は渡独してから毎年移籍しているので、４年間で４チームを見てきました。それぞれのチームでは、選手への扱いや、選手の獲得の方法も異なります。選手獲得の際に監督に全て任せているチームは監督がプレーを見て決めます。マネージャーやオーナーも見て全員で相談して決定するチームもありました。もちろん先ほど話した様に、そこのポジションを探していることが前提となります。困った事があったらすぐに助けてくれるチームもあればそうでない所もあります。誰か助けてくれる人を呼んでくれることもありました。自分だけの力で解決出来る事ばかりでは無いので、ドイツ語が出来ない間は精神的な負担も大きかったように思います。

僕の身長は170センチですが、日本でも小さい僕がセンタープレーヤーとしてドイツでこれまでやってこれたのは自分の長所に気づき、それを活かすプレーをしてきたからだと思います。試合中監督が僕に言うのは９割がた「一対一いけ。」「ポスト見ろ。」「早く回せ。」の三つです。僕は監督にミドルやロングでの得点は求められていないので一試合でのシュート本数は平均５本ほどです。その代わりにゲームメイク、アシストに尽力しています。ハンドボールはパワーだ、小さい選手は使えないと監督に言われた自分が常にスタメンで試合に出場できていたのは、自分がそのチームでどういう存在なのか、何を求められているのかを見極め、短所ではなく長所をアピールし続けていた結果かもしれません。もちろんこのままで終わるつもりはありませんし、自分が成功したとも思っていません。まず怪我を完治させて次へステップアップして行くつもりです。

ここまで自分が貪欲にこれたのも高校時代の恩師である冨松先生の教えがあったからです。ハンドボールはもちろんですが、先生の「甘えるな！」と言う教えが今になって非常に活きてきていると思います。僕はドイツに来た当初、家やチームも無くホームレスの様な生活をしたこともありましたが、耐え抜けたのもこの教えのお陰です。自分に甘い人間は日本でもそうですが、海外では特に壁にぶつかり易いかもしれません。これから海外で挑戦したいと思っている人には、明瞭な目的を持ち、準備を十分してから臨んで欲しいと思います。簡単では無いですが、辛い時期を乗り越えればチャンスはいつか巡って来ると思います。

平成25年度第1回東北地区大学ハンドボール研修会報告

東北学生ハンドボール連盟理事長　佐藤　靖

本研修会は、小学校及び中学校の教員や地域のスポーツクラブ指導者などを志す東北地区の学生が、将来、授業や部活動そしてクラブなどで、発育盛りの子どもたちにハンドボールを面白く指導できるようになるための知識や能力を養い高めることを目指して開催された。とりわけ平成20年3月に改訂告示された小学校学習指導要領では、5・6年生の「ボール運動」が、ゴール型、ネット型、ベースボール型の3つの型に分けられ、主に取り扱う運動に替えて、「それぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできる」とされた。今回は、このような経緯を受け、「ゴール型教材としてのハンドボール」をテーマとして、平成26年3月23日（日）～24日（月）まで、ユースパル（秋田県青少年交流センター）及び秋田県立体育館において実施された。参加者は、東北や北信越の学生を中心に、1日目は121名、2日目は81名が集い、盛況裏に終了した。研修会の概要は以下の通りである。

主催：東北学生ハンドボール連盟、**後援**：全日本学生ハンドボール連盟、秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、秋田市ハンドボール協会、協賛：株式会社モルテン、主管：秋田大学男女ハンドボール部

■3月23日（日）

[開会式] 12：40～12：50　司会：峰田基史

挨　拶　東北学生ハンドボール連盟会長　齋藤節郎
　　　　秋田県教育庁保健体育課課長　越後谷真悦

日程説明：佐藤　靖

[講演] 12：50～13：50　講師紹介：阿部　修

「ハンドボールで学ぶ」　筑波大学名誉教授　大西武三

[実践・研究発表] 14：00～15：00　座長：佐々木　究・峰田基史

1. 「小学校におけるゲーム及びボール運動（ゴール型）の授業実践」　三浦大介（秋田大学附属小学校）
2. 「中学生のハンドボール指導における左サイドシュートの運動発生に関する事例研究」　熊谷智史（秋田大学教育学研究科）・佐藤　靖（秋田大学）
3. 「ヨーロッパにおけるハンドボールの文化」　南木雅弘（神奈川県立生田東高等学校）

[実技研修] 15：40～17：10　講師紹介：桑原康平

「ゲームのルール変更によって得られる効果」（実践）
筑波大学体育系助教・男子ハンドボール部コーチ　ネメシュ・ローランド（Nemes Roland）

■3月24日（月）

[指導提案] 9：00～10：20　司会：佐藤靖

「ボール遊びの集い」

9：00～9：50「ハンドボールにつながる基礎感覚づくり」　指導者：木谷光男（秋田市立旭南小学校）

9：50～10：20「ハンドボールにつながるミニゲーム」　指導者：秋田大学HSC指導スタッフ

参加児童　秋田大学附属小学校、秋田市立旭南小学校、秋田市立桜小学校、潟上市立飯田川小学校、秋田大学HSC（附小、広面小）、羽後町ハンドボールスポーツ少年団（田代小、西馬音内小、羽後明成小）

[講義Ⅰ] 10：30～11：00　講師紹介：桑原康平

「ゲームのルール変更によって得られる効果」（理論）
筑波大学体育系助教・男子ハンドボール部コーチ　ネメシュ・ローランド（Nemes Roland）

[講義Ⅱ] 11：00～12：00　講師紹介：佐々木　究

「ハンドボールを学ぶ」　筑波大学名誉教授　大西武三

[閉会式] 12：00～12：15　司会：峰田基史

挨　拶　東北学生ハンドボール連盟会長　齋藤節郎
　　　　東北学生ハンドボール連盟理事長　佐藤　靖

期間中、様々な側面から補助をしていただいた秋田南高等学校ハンドボール部、秋田大学附属中学校ハンドボールクラブの方々に感謝申し上げます。

村田先生との思い出を語る会

堺ハンドボール連盟会長
「村田先生との思い出を語る会」代表世話人
宮﨑　寛

平成25年11月11日に、享年89才でご逝去された元大阪ハンドボール協会理事長であり、ハンドボール各協会役員を多数歴任された村田弘先生との思い出を語る会が、平成26年3月9日アゴーラリージェンシー堺ホテルにて開かれました。ロイヤルホール正面には、ハンドボールのゴールが運び込まれ、その中央に花に囲まれた村田先生の爽やかに微笑まれるお写真が置かれました。又、その両側には先生の懐かしいスナップ写真の数々や、平成8年に受賞された勲五等雙光旭日章も誇らしげに飾られました。

午後2時の開宴前に、260名の参加者全員がそれぞれの想いをこめて白いカーネーションを一輪ずつ献花したところで主催者代表のハンドボール三国丘クラブ会長安井俊一氏の挨拶で会が始まりました。引き続き日本ハンドボール協会副会長市原則之氏と、堺市長竹山修身氏の来賓挨拶を頂きました。御両氏共に、昔の村田先生との思い出が多く盛り込まれた温かい御挨拶で雰囲気が一気に和みました。次に大阪ハンドボール協会元会長神田清氏と元ハンドボール全日本代表で村田先生の愛弟子の東嘉伸氏によるユーモラスな献杯のかけ声で、会はほのぼのと盛り上がり歓談となりました。村田先生が全日本ハンドボールチームの監督をされていた時代の選手（木野実氏、本田洋氏、有永修二氏、穂積豊彦氏）の皆様もおそろいで遠方から参加下さり、三国丘高校関係者やハンドボール関係者による楽しいお話や、思わず拍手が湧き上がる話等が続き、会場は賑やかにほのぼのとした思い出との出会いの場になりました。

4時を過ぎ、次女の喜久子様と奥様の富子様より先生の御家庭での様子や、最期の数年間の様子なども話して頂き、奥様の「主人にとってハンドボールが全てでした。」というお言葉に、全員が納得の感を共有しました。最後に元ハンドボール全日本代表で、三丘体育会会長の飯端寿昭氏より閉会の挨拶があり、名残惜しい雰囲気の中会はお開きになりました。

今回、北海道や東京など各地からわざわざ参加してくださった方々を含めて260名という大勢の参加者の数から、又、参加できなかった人達から頂いたメッセージの数々から、さらには多くの御挨拶の内容や雑談の中から村田弘先生の存在の偉大さを改めて実感できました。皆様方の総力によって実現できた、実に充実した会でした。皆様方本当にありがとうございました。

村田先生、今後、ハンドボール人口が増えてよりメジャーな競技になるよう見守ってください。

平成26年3月28日

好きになれば、うまくなる
強くなるためには、苦しみを楽しめ（村田弘先生の好きな言葉です）

村田弘先生プロフィール

大正13年10月7日　堺市生まれ

昭和17年3月	府立富田林中学校卒業
昭和19年9月	日本体育専門学校卒業
昭和19年9月	海軍予備学生飛行科入隊
昭和20年9月	復員
昭和21年11月	府立八尾中学校
昭和23年4月	府立山本高等学校
昭和24年4月	府立高津高等学校
昭和25年4月	府立三国丘高等学校
昭和31年	日本vs西ドイツ　ナショナル戦出場
昭和21年～35年	国民体育大会　第1回～15回まで連続出場 優勝7回　準優勝3回 他、多くの大会で優勝し、選手として通算324勝49敗3分の成績を残す
昭和41～47年	ハンドボール全日本監督
昭和42年	第6回男子世界選手権監督
昭和45年	第7回男子世界選手権監督
昭和47年	ミュンヘンオリンピック監督 他、多くの国際試合で監督・団長を務める
昭和38～57年	大阪イーグルス　オーナー・監督
昭和52～57年	大阪ハンドボール協会理事長 他、ハンドボール各協会役員を多数歴任
昭和46年	第15回関西スポーツ賞受賞（運動記者クラブ）
昭和47年	日本スポーツ賞（全日本）受賞（読売新聞社）
昭和50年	日本スポーツ賞（大阪イーグルス）受賞（読売新聞社）
昭和60年3月	府立三国丘高等学校定年退職
昭和60年4月	株式会社ケー・エフ・シー
平成8年	勲五等雙光旭日章受章

平成25年11月11日　ご逝去　享年89歳

スコアルーム

第37回全国高校選抜大会

開催期日：2014年3月25日(火)～30日(日)

会　場：スカイホール豊田、岡崎市中央総合公園総合体育館(愛知)

【男子】

▼1回戦

岐阜東(岐阜)　30(16－14、14－14)28　高松工芸(香川)

松蔭(愛知)　37(14－11、23－18)29　長崎日本大学(長崎)

藤代紫水(茨城)　22(11－5、11－10)15　下松工業(山口)

大分雄城台(大分)　31(15－14、16－13)27　岡山理科大学附属(岡山)

川口北(埼玉)　29(11－13、18－14)27　聖和学園(宮城)

愛知(愛知)　31(13－10、12－15)27　大阪偕星学園(大阪)

(3－1　延長　3－1)

北陸(福井)　34(16－11、18－12)23　富岡(群馬)

小林秀峰(宮崎)　44(19－22、20－17)42　駿台甲府(山梨)

(2－2　延長　3－1)

市川(千葉)　34(17－13、17－15)28　法隆寺国際(奈良)

▼2回戦

興南(沖縄)　40(24－6、16－14)20　岐阜東(岐阜)

桃山学院(大阪)　34(11－10、23－10)20　明星(東京)

函館大学付属有斗(北海道)　40(18－13、22－18)31　松蔭(愛知)

藤代紫水(茨城)　32(18－10、14－12)22　不来方(岩手)

神戸国際大学附属(兵庫)　31(10－13、16－13)30　大分雄城台(大分)

(2－1　延長　3－3)

横浜創学館(神奈川)　50(26－13、24－18)31　四日市工業(三重)

岡崎城西(愛知)　30(18－16、12－12)28　昭和学院(千葉)

氷見(富山)　37(16－6、21－14)20　川口北(埼玉)

法政大学第二(神奈川)　26(12－16、14－9)25　愛知(愛知)

コザ(沖縄)　41(15－13、26－12)25　学校法人石川(福島)

熊本市立千原台(熊本)　28(11－11、17－9)20　洛北(京都)

岩国工業(山口)　35(20－11、15－15)26　北陸(福井)

香川中央(香川)　22(12－13、10－8)21　小林秀峰(宮崎)

市立岐阜商業(岐阜)　23(16－14、7－8)22　盛岡南(岩手)

高岡向陵(富山)　34(19－19、15－14)33　瓊浦(長崎)

春日丘(愛知)　33(18－14、15－10)24　市川(千葉)

▼3回戦

興南　42(19－10、23－17)27　桃山学院

藤代紫水　38(16－13、22－12)25　函館大学付属有斗

横浜創学館　36(19－14、17－20)34　神戸国際大学附属

氷見　40(20－14、20－13)27　岡崎城西

法政大学第二　36(18－16、18－12)28　コザ

岩国工業　44(22－13、22－15)28　熊本市立千原台

市立岐阜商業　37(13－8、24－7)15　香川中央

春日丘　41(23－13、18－13)26　高岡向陵

▼準々決勝

興南　32(17－13、15－13)26　藤代紫水

横浜創学館　35(21－13、14－18)31　氷見

法政大学第二　28(15－15、13－12)27　岩国工業

春日丘　39(21－9、18－18)27　市立岐阜商業

▼準決勝

興南　35(17－15、18－12)27　横浜創学館

春日丘　31(18－13、13－14)27　法政大学第二

▼決勝

興南　31(14－11、17－14)25　春日丘

【女子】

▼1回戦

湯沢(秋田)　26(15－10、11－7)17　静岡市立清水桜が丘(静岡)

岩国商業(山口)　21(11－4、10－9)13　明石(兵庫)

白梅学園(東京)　28(14－7、14－8)15　城北(熊本)

四日市四郷(三重)　22(10－9、12－11)20　鹿児島南(鹿児島)

浦添(沖縄)　28(11－10、17－13)23　埼玉栄(埼玉)

富岡東(群馬)　27(15－9、12－9)18　飛騨高山(岐阜)

名古屋経済大学市邨(愛知)　36(19－6、17－11)17　今治東中等教育学校(愛媛)

氷見(富山)　19(9－8、10－9)17　宣真(大阪)

大同大学大同(愛知)　24(11－8、13－5)13　不来方(岩手)

▼2回戦

高松商業(香川)　18(9－6、9－9)15　湯沢(秋田)

水海道第二(茨城)　28(14－8、14－11)19　立命館守山(滋賀)

高岡向陵(富山)　29(14－8、15－10)18　岩国商業(山口)

愛知商業(愛知)　21(12－9、9－10)19　白梅学園(東京)

聖和学園(宮城)　23(13－10、10－11)21　四日市四郷(三重)

昭和学院(千葉)　37(21－3、16－7)10　山陽(広島)

城北(徳島)　21(2－11、15－6)20　天白(愛知)

(3－2　延長　1－1)

四天王寺(大阪)　29(12－11、17－11)22　浦添(沖縄)

富岡東(群馬)　27(12－12、15－9)21　宮崎学園(宮崎)

洛北(京都)　22(12－11、10－10)21　大曲農業(秋田)

那覇西(沖縄)　29(16－14、13－9)23　小松市立(石川)

佼成学園女子(東京)　22(13－4、9－12)16　名古屋経済大学市邨(愛知)

氷見(富山)　27(14－6、13－8)14　北海道函館工業(北海道)

高水(山口)　23(10－16、13－6)22　栃木商業(栃木)

熊本国府(熊本)　29(8－12、15－11)26　横浜創英(神奈川)

(5－2　延長　1－1)

大同大学大同(愛知)　21(10－8、11－11)19　夙川学院(兵庫)

▼3回戦

高松商業　26(15－4、11－9)13　水海道第二

愛知商業　32(14－11、18－9)20　高岡向陵

昭和学院　39(15－12、24－9)21　聖和学園

四天王寺　31(16－5、15－8)13　城北

富岡東　32(16－12、16－7)19　洛北

佼成学園女子　20(11－7、9－10)17　那覇西

氷見　20(11－13、9－6)19　高水

大同大学大同　20(10－10、10－8)18　熊本国府

▼準々決勝

愛知商業　24(13－8、11－7)15　高松商業

四天王寺　28(13－14、15－13)27　昭和学院

佼成学園女子　25(13－10、12－13)23　富岡東

氷見　39(13－13、13－13)38　大同大学大同

(2－2　延長　1－1)(10　7mTC　9)

▼準決勝

愛知商業　26(10－10、16－7)17　四天王寺

佼成学園女子　27(17－5、10－13)18　氷見

▼決勝

佼成学園女子　23(13－9、10－11)20　愛知商業

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島収治【宮　城】尾形俊賢【福　島】今野雅益【茨　城】稲吉　繁、田中汀子、蓑輪光喜【埼　玉】沼倉陽子、沼倉　久、高田　誠【千　葉】勝俣裕二、吉田　修【東　京】金賀東子、森松誠二、田村公孝、西岡雅樹、山崎貴士、角屋圭子【神奈川】植村　繁、渡邊亜由美【静　岡】宮岸健次【愛　知】西村亮治【兵　庫】丸茂康子【高　知】有光正憲【長　崎】藤山聖子

【5月・6月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

5月10日(土)　常務理事会

6月21日(土)　第1回評議員会

6月22日(日)　第1回理事会

【大会】……………………………………………………………

6月13日(金)〜15日(日)

第19回ヒロシマ国際大会（兼日韓定期戦2014）……………………………………………………（広島）

6月25日(水)〜7月4日(金)

第2回U-22東アジア選手権（男女）………（香港）

6月28日(土)〜7月13日(日)

第19回女子ジュニア世界選手権……（クロアチア）

HAND BALL CONTENTS May.

（公財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第五四二号
平成二十六年四月二十六日印刷
平成二十六年五月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円